

(様式第10)

福大病庶165号

令和5年10月5日

厚生労働大臣 殿

学校法人福岡大学

理事長 貫 正義

福岡大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法(昭和23年法律第205号)第12条の3第1項及び医療法施行規則(昭和23年厚生省令第50号)第9条の2の2の第1項の規定に基づき、令和4年度の業務に関して報告します。

1 開設者の住所及び氏名

住所	〒814-0180 福岡市城南区七隈八丁目19番1号
氏名	学校法人 福岡大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名称

福岡大学病院

3 所在の場所

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目45番1号
電話(092)801-1011

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input type="radio"/>	1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
<input type="radio"/>	2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し○を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	有						
内科と組み合わせた診療科名等							
	1呼吸器内科		2消化器内科		3循環器内科		4腎臓内科
	5神経内科		6血液内科		7内分泌内科		8代謝内科
	9感染症内科	○	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	○	11リウマチ科		
診療実績							
腎臓内科、血液内科、内分泌内科、感染症内科は内科として標榜している。							

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科						有	
外科と組み合わせた診療科名							
○	1呼吸器外科		2消化器外科		3乳腺外科		4心臓外科
	5血管外科	○	6心臓血管外科		7内分泌外科	○	8小児外科
診療実績							
消化器外科、乳腺外科、心臓外科、血管外科、内分泌外科は外科として標榜している。							

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること(「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと)。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

○	1精神科	○	2小児科	○	3整形外科	○	4脳神経外科
○	5皮膚科	○	6泌尿器科	○	7産婦人科		8産科
	9婦人科	○	10眼科	○	11耳鼻咽喉科	○	12放射線科
	13放射線診断科		14放射線治療科	○	15麻酔科	○	16救急科

(注) 標榜している診療科名に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科						有	
歯科と組み合わせた診療科名							
	1小児歯科		2矯正歯科	○	3歯科口腔外科		
歯科の診療体制							

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名に○印を付けること。
 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1	脳神経内科	2	呼吸器科	3	消化器科	4	循環器科	5	形成外科
6	美容外科	7	こう門科	8	リハビリテーション科	9	病理診断科	10	
11		12		13		14		15	
16		17		18		19		20	
21		22		23		24		25	

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
60				855	915

(単位: 床)

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計
医師	547	64	555.6
歯科医師	11	3	11.4
薬剤師	84	4	86
保健師	0	0	0
助産師	61	0	61
看護師	874	20	889.1
准看護師	0	0	0
歯科衛生士	4	1	4.9
管理栄養士	11	8	18.6

職種	員数
看護補助者	62
理学療法士	22
作業療法士	8
視能訓練士	4
義肢装具士	0
臨床工学士	18
栄養士	0
歯科技工士	1
診療放射線技師	51

職種	員数
診療エックス線技師	0
臨床検査技師	74
衛生検査技師	0
その他	0
あん摩マッサージ指圧師	0
医療社会事業従事者	6
その他の技術員	40
事務職員	181
その他の職員	31

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めなくて記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人数(人)	専門医名	人数(人)
総合内科専門医	51	眼科専門医	8
外科専門医	39	耳鼻咽喉科専門医	7
精神科専門医	11	放射線科専門医	10
小児科専門医	19	脳神経外科専門医	12
皮膚科専門医	6	整形外科専門医	22
泌尿器科専門医	8	麻酔科専門医	8
産婦人科専門医	14	救急科専門医	12
		合計	227

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (岩崎 昭憲) 任命年月日 令和 元 年 12 月 1 日

2018.9.17 医療安全管理者認定証(認定番号180917183)
 2021.12.4 医療安全管理者認定証(認定番号 第18495号)

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	609.9 人	3.6 人	613.5 人
1日当たり平均外来患者数	1297.6 人	50.6 人	1348.2 人
1日当たり平均調剤数		1145.6	剤
必要医師数		142	人

必要歯科医師数	4	人
必要薬剤師数	21	人
必要(准)看護師数	352	人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二条

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設備概要			
			病床数		心電計	
集中治療室	358.49 m ²	鉄筋 コンクリート造	病床数	10 床	心電計	有
			人工呼吸装置	有	心細動除去装置	有
			その他の救急蘇生装置	有	ペースメーカー	有
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	12.8 m ²	病床数	1 床	
	[移動式の場合]	台数	6 台			
医薬品情報 管理室	[専用室の場合]	床面積	16.8 m ²			
	[共用室の場合]	共用する室名				
化学検査室	307.80 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	生化学自動分析装置、全自動化学発光免疫測定装置、 エンドキシン測定装置		
細菌検査室	109.90 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	自動遺伝子検査装置、嫌気ワークステーション、 システム生物顕微鏡		
病理検査室	204.23 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	病理遺伝子解析装置、新型臓器撮影装置、 システム生物顕微鏡		
病理解剖室	132.80 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	電動昇降式解剖台、大型吸引器、骨切断機用骨固定架台		
研究室	5449.16 m ²	鉄筋コンクリート造	(主な設備)	デスクトップパソコン、リアルタイムPCR解析システム		
講義室	372.90 m ²	鉄筋コンクリート造	室数	2 室	収容定員	400 人
図書室	2246.16 m ²	鉄筋コンクリート造	室数	13 室	蔵書数	264,000 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	84.6 %	逆紹介率	69.2 %
算出 根拠	A: 紹介患者の数	16,517 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	14,894 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	1,698 人	
	D: 初診の患者の数	21,522 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由(注)

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害 関係	委員の要件 該当状況

横山 晋二	久留米大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	無	1
合原 則隆	〃		〃	無	1
堤 一貴	〃		〃	無	1
藤田 昌樹	福岡大学病院		院内監査委員	有	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	無	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者(1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有
委員の選定理由の公表の有無	有
公表の方法	
福岡大学病院ホームページに掲載	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数 (人)
該当なし	
先進医療の種類合計数	0
取扱い患者数の合計(人)	0

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
インターフェロンα皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法 成人T細胞白血病リンパ腫(症候を有するくすぶり型又予後不良因子を有さない慢性型のものに限る。)	0人
全身性エリテマトーデスに対する初回副腎皮質ホルモン治療におけるクロビドグレル硫酸塩、ピタバスタチンカルシウム及びトコフェロール酢酸エステル併用投与の大腿骨頭壊死発症抑制療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
先進医療の種類合計数	2
取扱い患者数の合計(人)	0

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第二百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要 該当なし	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	
医療技術名	取扱患者数
当該医療技術の概要	

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

その他の高度医療の種類合計数	0
取扱い患者数の合計(人)	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	6	61	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	13
2	筋萎縮性側索硬化症	2	62	下垂体前葉機能低下症	79
3	脊髄性筋萎縮症	2	63	先天性副腎皮質酵素欠損症	5
4	原発性側索硬化症	1	64	サルコイドーシス	38
5	進行性核上性麻痺	16	65	特発性間質性肺炎	87
6	パーキンソン病	375	66	肺動脈性肺高血圧症	20
7	大脳皮質基底核変性症	5	67	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	8
8	ハンチントン病	1	68	リンパ管筋腫症	20
9	神経有棘赤血球症	2	69	網膜色素変性症	13
10	シャルコー・マリー・トウス病	1	70	原発性胆汁性肝硬変	52
11	重症筋無力症	91	71	原発性硬化性胆管炎	4
12	多発性硬化症／視神経脊髄炎	70	72	自己免疫性肝炎	12
13	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	16	73	クローン病	199
14	封入体筋炎	2	74	潰瘍性大腸炎	272
15	多系統萎縮症	24	75	好酸球性消化管疾患	2
16	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	41	76	慢性特発性偽性腸閉塞症	1
17	ライゾゾーム病	21	77	若年性特発性関節炎	1
18	副腎白質ジストロフィー	2	78	非典型溶血性尿毒症症候群	1
19	ミトコンドリア病	4	79	筋ジストロフィー	7
20	もやもや病	59	80	脊髄空洞症	2
21	プリオン病	1	81	アイザックス症候群	1
22	HTLV-1関連脊髄症	16	82	脳表ヘモジリン沈着症	1
23	全身性アミロイドーシス	18	83	前頭側頭葉変性症	6
24	遠位性ミオパチー	1	84	先天性無痛無汗症	1
25	神経線維種症	42	85	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	1
26	天疱瘡	6	86	レノックス・ガストー症候群	2
27	膿疱性乾癬(汎発型)	19	87	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	1
28	高安動脈炎	12	88	結節性硬化症	4
29	巨細胞性動脈炎	2	89	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	8
30	結節性多発動脈炎	3	90	特発性後天性全身性無汗症	6
31	顕微鏡的多発血管炎	15	91	マルファン症候群	6
32	多発血管炎性肉芽腫症	3	92	ウイルソン病	4
33	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	17	93	アルポート症候群	1
34	悪性関節リウマチ	3	94	急速進行性糸球体腎炎	1
35	バージャー病	3	95	一次性ネフローゼ症候群	25
36	原発性高リン脂質抗体症候群	1	96	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	1
37	全身性エリテマトーデス	118	97	紫斑病性腎炎	3
38	皮膚筋炎／多発性筋炎	55	98	間質性膀胱炎(ハンナ型)	1
39	全身性强皮症	39	99	オスラー病	1
40	混合性結合組織病	15	100	閉塞性細気管支炎	2
41	シェーグレン症候群	10	101	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	2
42	成人スチル病	11	102	α1-アンチトリプシン欠乏症	2
43	再発性多発軟骨炎	2	103	偽性副甲状腺機能低下症	2
44	ベーチェット病	32	104	副腎皮質刺激ホルモン不応症	1
45	特発性拡張型心筋症	24	105	ビタミンD抵抗性くる病／骨軟化症	6
46	肥大型心筋症	6	106	プロピオン酸血症	1
47	再生不良性貧血	10	107	尿素サイクル異常症	1
48	自己免疫性溶血性貧血	2	108	原発性高カイトロミクロン血症	1
49	特発性血小板減少性紫斑病	28	109	脂肪萎縮症	2
50	原発性免疫不全症候群	1	110	家族性地中海熱	1
51	IgA腎症	45	111	慢性再発性多発性骨髄炎	1
52	多発性嚢胞腎	23	112	強直性脊椎炎	2
53	黄色靱帯骨化症	4	113	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	1
54	後縦靱帯骨化症	46	114	クリッペル・トレノネー・ウエーバー症候群	1
55	広範脊柱管狭窄症	7	115	後天性赤芽球癆	2
56	特発性大腿骨頭壊死症	56	116	嚢胞性線維症	2
57	下垂体性ADH分泌異常症	11	117	IgG4関連疾患	1
58	下垂体性PRL分泌亢進症	8	118	好酸球性副鼻腔炎	5
59	クッシング病	1	119	進行性ミオクロームステんかん	1
60	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	4	120	特発性多中心性キャスルマン病	3

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

疾患数	120
合計患者数(人)	2,411

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
情報通信機器を用いた診療	褥瘡ハイリスク患者ケア加算
特定機能病院入院基本料(一般病棟7対1入院基本料)(入院栄養管理体制加算)	ハイリスク妊娠管理加算
特定機能病院入院基本料(精神病棟13対1入院基本料)	ハイリスク分娩管理加算
臨床研修病院入院診療加算	総合評価加算
救急医療管理加算	術後疼痛管理チーム加算
超急性期脳卒中加算	後発医薬品使用体制加算1
妊産婦緊急搬送入院加算	病棟薬剤業務実施加算1
診療録管理体制加算1	病棟薬剤業務実施加算2
医師事務作業補助体制加算1(20対1)	データ提出加算2
急性期看護補助体制加算(25対1(5割以上)) (夜間100対1急性期看護補助体制加算) (看護補助体制充実加算)	入退院支援加算1、3(地域連携診療計画加算、入院時支援加算、総合機能評価加算)
看護職員夜間12対1配置加算1	認知症ケア加算1
看護補助加算2(50対1)(看護補助体制充実加算)	せん妄ハイリスク患者ケア加算
療養環境加算	精神疾患診療体制加算
重症者等療養環境特別加算	精神科急性期医師配置加算
無菌治療室管理加算2	排尿自立支援加算
緩和ケア診療加算	地域医療体制確保加算
精神科身体合併症管理加算	救命救急入院料1(救急体制充実加算2、小児加算あり)【救命救急センターBユニット】
精神科リエゾンチーム加算	特定集中治療室管理1【救命救急センターBユニット】
摂食障害入院医療管理加算	救命救急入院料4(救急体制充実加算2、小児加算あり)【救命救急センターAユニット】(算定上限日数に関する基準、早期栄養介入管理加算)
がん診療連携拠点病院加算	特定集中治療室管理料1(小児加算、早期離床・リハビリテーション加算)【SICU】
栄養サポートチーム加算	特定集中治療室管理料1(早期離床・リハビリテーション加算あり)【CCU】(算定上限日数に関する基準、小児加算、早期栄養介入管理加算)
医療安全対策加算1	脳卒中ケアユニット入院医療管理料(早期栄養介入管理加算)【SCU】
感染防止対策加算1(感染防止対策地域連携加算、抗菌薬適正使用支援加算あり)	総合周産期特定集中治療室管理料 ・母体・胎児集中治療室管理料(成育連携支援加算) 【MFICU】
感染対策向上加算1(指導強化加算)	新生児治療回復室入院医療管理料【GCU】
患者サポート体制充実加算	小児入院医療管理料1(注2プレイルーム加算あり)(養育支援体制加算、時間外受入体制強化加算1)【新館5階小児医療セン
重症患者初期支援充実加算	ハイケアユニット入院医療管理料
	看護職員処遇改善評価料(68)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
外来栄養食事指導料 注3(がん専門管理栄養士が栄養指導を行う場	ハイリスク妊産婦連携指導料2
植込型除細動器移行期加算(※心臓ペースメーカー指導管理料の加算)	がん治療連携計画策定料
遠隔モニタリング加算(※注5 心臓ペースメーカー指導管理料の加算)	がん治療連携管理料
高度難聴指導管理料	認知症専門診断管理料
糖尿病合併症管理料	肝炎インターフェロン治療計画料
がん性疼痛緩和指導管理料	外来排尿自立指導料
がん患者指導料イ	薬剤管理指導料
がん患者指導料ロ	医療機器安全管理料1
がん患者指導料ハ	医療機器安全管理料2
がん患者指導料ニ	在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物住居者訪問看護・指導料
外来緩和ケア管理料	在宅血液透析指導管理料
移植後患者指導管理料(臓器移植後)	在宅持続陽圧呼吸療法指導管理料の注2に掲げる遠隔モニタリング加算
糖尿病透析予防指導管理料	在宅腫瘍治療電場療法指導管理料
小児運動器疾患指導管理料	在宅経肛門的自己洗腸指導管理料
乳腺炎重症化予防ケア・指導料	持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定
婦人科特定疾患治療管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)
腎代替療法指導管理料	持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動しない持続血糖測定器を用いる場合)
二次性骨折予防継続管理料1	骨髄微小残存病変量測定
二次性骨折予防継続管理料3	造血器腫瘍遺伝子検査
下肢創傷処置管理料	遺伝学的検査
外来放射線照射診療料	抗アデノ随伴ウイルス9型(AAV9)抗体
外来腫瘍化学療法診療料1	BRCA1/2遺伝子検査
外来腫瘍化学療法診療料1(連携充実加算)	がんゲノムプロファイリング検査
ニコチン依存症管理料	先天性代謝異常症検査
療養・就労両立支援指導料の注3に規定する相談支援加算	抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査)
ハイリスク妊産婦連携指導料1	HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
ウイルス・細菌核酸多項目同時検出	外傷全身CT加算
検体検査管理加算(IV)	心臓MRI撮影加算
国際標準検査管理加算	CT撮影及びMRI撮影
遺伝カウンセリング加算	肝エラストグラフィ加算
遺伝性腫瘍カウンセリング加算	血流予備量比コンピューター断層撮影
植込型心電図検査	乳房MRI撮影加算
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	小児鎮静下MRI撮影加算
胎児心エコー法	頭部MRI撮影加算
ヘッドアップティルト試験	大腸CT撮影加算
人工臓器検査、人工臓器療法	画像診断管理加算3
長期継続頭蓋内脳波検査	遠隔画像診断
長期脳波ビデオ同時記録検査1	抗悪性腫瘍剤処方管理加算
終夜睡眠ポリグラフィー(1及び2以外の場合 安全精度管理下で行うもの)	無菌製剤処理科
脳波検査判断料1	外来化学療法加算1
単線維筋電図	連携充実加算
神経学的検査	心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
補聴器適合検査	脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
ロービジョン検査判断料	運動器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
コンタクトレンズ検査料1	運動器リハビリテーション料(Ⅱ)【同基準Ⅰの届出をもって代えることができる】
小児食物アレルギー負荷検査	呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)【初期加算含む】
内服・点滴誘発試験	がん患者リハビリテーション料(Ⅰ)
CT透視下気管支鏡検査加算	リンパ浮腫複合的治療料
経気管支凍結生検法	救急患者精神科継続支援料
ポジトロン断層撮影	認知療法・認知行動療法1
ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影	精神科作業療法
冠動脈CT撮影加算	精神科ショート・ケア「大規模なもの」

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
精神科デイ・ケア「大規模なもの」	癒着性脊髄くも膜炎手術(脊髄くも膜剥離操作を行うもの)
抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料)	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
医療保護入院等診療料	脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
静脈圧迫処置(慢性静脈不全に対するもの)	角膜移植術・内皮移植加算
人工腎臓(慢性維持透析を行った場合1)	羊膜移植術(学会認定施設書の提出の必要性)
硬膜外自家血注入	緑内障手術(流出路再建術) イ 眼内法 ロ その他のもの
下肢末梢動脈疾患指導管理加算	緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
導入期加算3	緑内障手術(水晶体再建術併用眼内ドレーン挿入術)
透析液水質確保加算	緑内障手術(濾過胞再建術(needle法))
慢性維持透析濾過加算	網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
LDLアフェレシス療法における血漿交換療法	網膜再建術
移植後抗体関連拒絶反応における血漿交換療法	植込型骨補聴器(直接振動型)植込術
一酸化窒素吸入療法	耳管用補綴材挿入術
心不全に対する遠赤外線温熱療法	経外耳道的内視鏡下鼓室形成術
歩行運動処置(ロボットスーツによるもの)	人工中耳植込術
センチネルリンパ節加算	人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
自家脂肪注入	内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
組織拡張器による再建術(乳房(再建時手術)の場合に限る。)	経鼻内視鏡下副鼻腔悪性腫瘍手術(頭蓋底郭清、再建を伴うもの)
四肢・躯幹軟部悪性腫瘍手術及び骨悪性腫瘍手術の注に規定する処理骨再建加算	鏡視下喉頭悪性腫瘍手術
骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	鏡視下咽頭悪性腫瘍手術(軟口蓋悪性腫瘍手術を含む)
後縦靭帯骨化症手術(前方進入によるもの)	上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)・下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)
椎間板内酵素注入療法	乳房切除術(遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対するもの)
内視鏡の下脳腫瘍生検	乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの))
内視鏡の下脳腫瘍摘出術	乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)
頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る)	乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)
脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術	ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
胸腔鏡下拡大胸腺摘出術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
胸腔鏡下縦隔悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合)
胸腔鏡下良性縦隔腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	大動脈バルーンパンピング法(IABP法)
肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る。)	経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの)
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(気管支形成を伴う肺切除)	経皮的大動脈遮断術
胸腔鏡下肺悪性腫瘍手術(肺葉切除又は1肺葉を超えるもので内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	経皮的下肢動脈形成術
同種死体肺移植術	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(傍大動脈)
生体部分肺移植術	腹腔鏡下リンパ節群郭清術(側方)
食道縫合術(穿孔、損傷)(内視鏡によるもの)、内視鏡下胃、十二指腸穿孔瘻孔閉鎖術、胃瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、小腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、結腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腎(腎盂)腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、尿管腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、膀胱腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)、腔腸瘻閉鎖術(内視鏡によるもの)	ダメージコントロール手術
胸腔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	内視鏡的逆流防止粘膜切除術
縦隔鏡下食道悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	腹腔鏡下十二指腸局所切除術(内視鏡処置を併施するもの)
内視鏡下筋層切開術	腹腔鏡下胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経皮的冠動脈形成術	腹腔鏡下噴門側胃切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの)	腹腔鏡下胃全摘術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
経皮的冠動脈ステント留置術	バルーン閉塞下逆行性経静脈的塞栓術
胸腔鏡下弁形成術	腹腔鏡下胆嚢悪性腫瘍手術(胆嚢床切除術を伴うもの)
胸腔鏡下弁置換術	胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る。)
経カテーテル大動脈弁置換術	体外衝撃波胆石破砕術
不整脈手術 左心耳閉鎖術(胸腔鏡下に伴うもの)	腹腔鏡下肝切除術
経皮的中隔心筋焼灼術	腹腔鏡下肝切除術(内視鏡手術支援機器を用いるもの)
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	体外衝撃波腓石破砕術
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー)	腹腔鏡下腓腫瘍摘出術
両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合)	腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合)
植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術	同種死体膵島移植術
植込型除細動器移植術(心筋リードを用いる場合)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いる場合)	腹腔鏡下結腸悪性腫瘍切除術(内視鏡手術支援機器を用いるもの)

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療料)

施設基準の種類	施設基準の種類
内視鏡的小腸ポリープ切除術	輸血管理料 (I)
早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	貯血式自己輸血管理体制加算 (※輸血管理料の加算)
腹腔鏡下直腸切除・切断術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	自己クリオプレシピレート作製術 (用手法)
体外衝撃波腎・尿管結石破砕術	同種クリオプレシピレート作製術
腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
腹腔鏡下尿管悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	胃瘻造設時嚥下機能評価加算
腹腔鏡下腎盂形成手術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術
同種死体腎移植術	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する子宮付属器腫瘍摘出術)
生体腎移植術	医科点数表第2章第10部手術の通則の19に規定する手術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する乳房切除術)
膀胱水圧拡張術、ハンナ型間質性膀胱炎手術 (経尿道)	麻酔管理料 (I)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	麻酔管理料 (II)
腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	麻酔管理料 周術期薬剤管理加算
膀胱頸部形成術 (膀胱頸部吊上術以外)	放射線治療専任加算
埋没陰茎手術	外来放射線治療加算
陰囊水腫手術 (鼠径部切開によるもの)	体外照射呼吸性移動対策加算
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	高エネルギー放射線治療
腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 (内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	1回線量増加加算 (全乳房照射・前立腺照射)
腹腔鏡下腔式子宮全摘術 (内視鏡手術用支援機器を用いる場合)	強度変調放射線治療 (IMRT)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮頸がんに限る。)	画像誘導放射線治療 (IGRT)
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体がんに限る。)	定位放射線治療
腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術 (子宮体がんに限る。)(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)	定位放射線治療呼吸性移動対策加算 (その他)
子宮付属器腫瘍摘出術 (遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対するもの)	病理診断管理加算 (2)
腹腔鏡下子宮瘢痕部修復術	悪性腫瘍病理組織標本加算
胎児輸血術	保険医療機関間の連携による病理診断
臍帯穿刺	地域歯科診療支援病院歯科初診料
体外式膜型人口肺管理料	歯科診療特別対応連携加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・該当なし	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。	
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	腫瘍・血液感染症内科、消化器外科、脳神経外科、消化器内科、乳腺外科・放射線科、歯科口腔外科との病理臨床カンファレンスに加え、病理解剖後の臨床病理カンファレンスを併せ、年間約60回行っています	
剖 検 の 状 況	剖検症例数(例)	9
	剖検率(%)	3.8

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
心房細動患者の至適降圧レベルを検討する無作為化比較試験	有馬 久富	衛生・公衆衛生学	2,210,000	補 委	日本学術振興会
HDL機能を利用した心臓リハビリテーションによる心血管疾患予後因子の解明	北島 研	卒後臨床研修センター	1,300,000	補 委	日本学術振興会
腸内細菌から動脈硬化を予測する:AIを用いた挑戦	有馬 久富	衛生・公衆衛生学	2,470,000	補 委	日本学術振興会
「難治性炎症性腸管障害に関する調査研究」診断基準・治療指針改訂プロジェクト	平井 郁仁	消化器内科	200,000	補 委	厚生労働省
クローン病の活動性に関連する要因分析と寛解維持への睡眠障害改善効果の検証	平井 郁仁	消化器内科	100,000	補 委	文部科学省
動脈硬化、心血管病、CKDに及ぼす不眠症、睡眠時無呼吸症候群の解明	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	910,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
心房細動患者の至適降圧レベルを検討する無作為化比較試験	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	2,210,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
一般住民における夜間頻尿の包括的病態解明	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	616,139	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
神経疾患における睡眠時ブラキシズムと睡眠障害に関する研究	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	650,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
一般住民における過活動膀胱、夜間頻尿と動脈硬化の機序解明	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	1,040,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
腸内細菌から動脈硬化を予測する:AIを用いた腸腺	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	2,470,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に関する腸内細菌叢異常を解明する	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	1,430,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
一般住民における前立腺肥大と動脈硬化の機序解明	吉村 力 (研究代表者)	呼吸器内科	2,080,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
液性免疫解析による免疫チェックポイント阻害剤の新規治療効果予測因子の探索研究	井上 博之 (研究代表者)	呼吸器内科	2,340,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
難治性希少呼吸器腫瘍に対するCVA11を用いた新規腫瘍溶解性ウイルス療法の開発	井形 文保 (研究代表者)	呼吸器内科	1,800,000	補 委	独立行政法人 日本学術振興会
間質性肺炎の原因と治療法	濱田 直樹 (研究代表者)	呼吸器内科	10,000,000	補 委	公益財団法人柿原科学技術研究財団
自殺未遂者等支援拠点医療機関整備事業	衛藤 暢明	精神神経科	2,086,000	補 委	厚生労働省

小計17件

双極性うつ病に対する運動療法の効果	富山 優子	精神神経科	500,000	補 委	臨床研究奨励基金
統合失調症患者のリハビリに関する評価及びバイオマーカーについて	浅田 遼	精神神経科	1,000,000	補 委	臨床研究奨励基金
精神科領域のガイドラインの社会実装化に関する検証研究	堀 輝	精神神経科	390,000	補 委	AMED
ICTと医療・健康・生活情報を活用した「次世代型子ども医療支援システム」の構築に関する研究	永光 信一郎	小児科	11,140,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
身体的・精神的・社会的(biopsychosocial)に乳幼児・学童・思春期の健やかな成長・発達をポピュレーションアプローチで切れ目なく支援するための社会実装化研究	永光 信一郎	小児科	19,200,000	補 委	厚生労働省
思春期のメンタルヘルス診断・予防的支援としてのICTを活用した「こころの学校健診」開発研究	永光 信一郎(分担)	小児科	300,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
成育基本法を地域格差なく継続的に社会実装するための研究	永光 信一郎(分担)	小児科	400,000	補 委	厚生労働省
ベッドサイドスコアを用いた新生児侵襲性カンジダ症治療の検討	太田 栄治	小児科	4,500,000	補 委	文部科学省
川崎病冠動脈瘤発症予防のための急性期治療難治例予測診断法開発に直結するエビデンス創出研究	吉兼 由佳子	小児科	11,110,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
難治性小児消化器疾患の医療水準向上および移行期・成人期のQOL向上に関する研究	廣瀬 龍一郎	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	200,000	補 委	厚生労働省(分担)
新規蛍光装置を使用したビタミンB2ガイド下手術の確立と実用化に向けた取り組み	早稲田 龍一	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	1,100,000	補 委	日本学術振興会(代表)
小児固形悪性腫瘍に対する超音波硬度計測における組織硬度と病理学的分子生物学的解析	渋井 勇一	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	100,000	補 委	日本学術振興会(分担)
特発性大腿骨頭壊死症の医療水準及び患者QOL向上に資する大規模施設研究	代表者:菅野信彦 分担者:山本卓明	整形外科	100,000	補 委	厚生労働省
変形性膝関節症手術における神経麻痺の発生メカニズム解明と予防法の開発	石松哲郎	整形外科	4,550,000	補 委	文部科学省・日本学術振興会 科研費(若手研究)
パーキンソン病重症度を示す生体指標の確立による脳深部刺激条件最適化方法開発	森下登史	脳神経外科	180,000	補 委	文部科学省
計算論モデルと脳神経画像解析によるトゥレット症重症化機序の解明	森下登史	脳神経外科	1,100,000	補 委	文部科学省
てんかん発作伝播における大脳基底核ネットワーク機能の解明	森下登史	脳神経外科	1,800,000	補 委	武田科学振興財団
神経皮膚症候群におけるアンメットニーズを満たす多診療科連携診療体制の確立	今福信一	皮膚科	1,500,000	補 委	厚生労働省
内蔵脂肪の機能低下に伴う前立腺肥大症発症機序の解明	羽賀宣博	腎泌尿器外科	1,100,000	補 委	科研費

小計19件

一般住民における過活動膀胱、夜間頻尿と動脈硬化の機序解明	坪内和女	腎泌尿器外科	500,000	補委	科研費
一般住民における前立腺肥大と動脈硬化の機序解明	中村信之	腎泌尿器外科	800,000	補委	科研費
逆流性腎症を有する患者における腎障害発症メカニズムの解明と腎機能予測モデルの開発	松岡弘文	腎泌尿器外科	400,000	補委	科研費
マイクロRNAを用いた低活動膀胱診断に対する超低侵襲診断方法の開発	羽賀宣博	腎泌尿器外科	600,000	補委	一般財団法人 医療・介護・教育研究財団
ナノポアシーケンス法を用いた感染症の発症リスクを診断する自己学習型アプリケーションの開発	漆山 大知	産婦人科	1,000,000	補委	公益財団法人 臨床研究奨励基金
腔内細菌叢NGS検査による子宮内感染スクリーニング法の開発	清島 千尋	産婦人科	1,000,000	補委	公益財団法人 柿原科学技術研究財団
受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	平川 豊文	産婦人科	1,000,000	補委	公益財団法人 臨床研究奨励基金
受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	平川 豊文	産婦人科	1,500,000	補委	公益財団法人 今井精一記念財団
受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	平川 豊文	産婦人科	800,000	補委	一般財団法人 医療・介護・教育研究財団
受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	平川 豊文	産婦人科	2,000,000	補委	一般財団法人 貝原守一医学振興財団
子宮内感染の予測と羊水穿刺の適応を診断する方法の開発	倉員 正光	産婦人科	400,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
マルチオミクス解析に基づく感染性早産児の神経発達障害に関わる分子の同定	漆山 大知	産婦人科	1,400,000	補委	独立行政法人 日本学術振興会
反復着床不全患者を対象とした自家脂肪組織由来再生細胞による細胞療法の開発	四元 房典	産婦人科	278,000	補委	福岡大学領域別研究分研究チーム
母乳中におけるリンパ球アポトーシス誘導因子 RCAS1の臨床的意義	倉員 正光	産婦人科	278,000	補委	福岡大学領域別研究分研究チーム
受精卵分化不全患者を対象としたウルトラファインバブルによる新規培養液の開発	平川 豊文	産婦人科	347,000	補委	福岡大学領域別研究分研究チーム
アデノウイルス眼感染症の細胞生物学的解析と治療薬剤開発の研究	内尾英一	眼科	1,000,000	補委	文部科学省
ECVの概念を応用したEOBの細胞内外分布の分離:肝機能と肝腫瘍鑑別診断への応用	吉満研吾	放射線科	1,400,000	補委	文科省科研費 基盤研究(C)
肝線維化および肝細胞機能に関するMRIを用いた新たな定量的診断法の開発	高山幸久	放射線科	2,058,410	補委	文科省科研費 基盤研究(C)
高齢者多発性骨髄腫に対する標準治療の確立と治療効果・耐性獲得に関わる分子基盤の探索	高松泰	腫瘍・血液・感染症内科	260,000	補委	AMED

小計19件

糖尿病性腎臓病におけるリン代謝とRho-kinaseの意義	川浪大治	内分泌・糖尿病内科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
ファーストメッセンジャーとしてのリンとその感知機能の解明	高士祐一	内分泌・糖尿病内科	1,000,000	補 委	日本学術振興会
代謝特性の異なる遅筋と速筋に着目した糖尿病における骨格筋障害の発症機構の解明	横溝 久	内分泌・糖尿病内科	1,518,418	補 委	日本学術振興会
「総合知」を結集したトランスディシプリナリー型異分野融合研究基盤の創出 シースH6「ペプチド医薬の超長期滞留性DDSの開発」	横溝 久	内分泌・糖尿病内科	909,091	補 委	AMED
病型別に慢性腎臓病の発症および増悪に関与する腸内細菌叢異常を解明する	安野 哲彦	腎臓・膠原病内科	4,160,000	補 委	科研費
最終糖化産物(AGEs)の慢性腎臓病に対する影響を解明する-疫学的視点より	伊藤 建二	腎臓・膠原病内科	4,160,000	補 委	科研費
神経変性疾患領域の基盤的調査研究	坪井義夫	脳神経内科	900,000	補 委	厚労科研
HAMならびに類縁疾患の患者レジストリによる相談機能の強化と診療ガイドラインの改訂	坪井義夫	脳神経内科	200,000	補 委	厚労科研
プリオン病及び遅発性ウイルス感染症に関する調査研究班	坪井義夫	脳神経内科	500,000	補 委	厚労科研
進行性核上性麻痺における視床下核容積定量と症状、予後の関連性を調査する前向き研究	藤岡伸助	脳神経内科	300,000	補 委	基金分 (基盤研究C)
神経細胞が軸索を1本だけ持つ仕組みの解明	河田純一	脳神経内科	390,000	補 委	基金分 (基盤研究C)
重度パーキンソン病患者における睡眠障害の実態と危険因子の解明	長城晃一	脳神経内科	1,300,000	補 委	基金分 (基盤研究C)
パーキンソン病患者を対象とした、VR卓球プログラムの有効性と実現可能性に関する無作為化オープン比較試験	藤岡伸助	脳神経内科	700,000	補 委	大和証券ヘルス財団
パーキンソン病患者における日内変動する疲労症状と身体活動パターンとの関連の解明	長城晃一	脳神経内科	500,000	補 委	臨床研究奨励基金
パーキンソン病患者に対する在宅場面における多職種連携ケアモデルが生活の質に及ぼす影響についての検討	長城晃一	脳神経内科	560,000	補 委	笹川保健財団
消化器がんに対する免疫チェックポイント阻害剤治療の腫瘍免疫学的評価とその意義	山田哲平	消化器外科	800,000	補 委	文部科学省
患者層別化マーカー探索技術の開発／医療ニーズの高い特定疾患・薬剤に対する患者層別化基盤技術の開発	長谷川 傑	消化器外科	3,000,000	補 委	国立研究開発法人日本医療研究開発機構
神経疾患における睡眠時ブラキシズムと睡眠障害に関する研究	梅本 丈二	歯科口腔外科	650,000	補 委	日本学術振興会
口腔-腸内細菌叢と人工呼吸器関連肺炎(VAP)	喜多 涼介	歯科口腔外科	1,430,000	補 委	日本学術振興会

小計19件

動脈硬化性疾患患者の口腔-腸内細菌叢の微生物相解析	石田 晋太郎	歯科口腔外科	2,730,000	補 委	日本学術振興会
人工呼吸器関連肺炎続発患者における口腔-腸内細菌叢相関の集中治療施設間比較	眞野 亮介	歯科口腔外科	1,690,000	補 委	日本学術振興会
重症感染症の重篤化と口腔-腸連関の関連性解明	吉野 綾	歯科口腔外科	910,000	補 委	日本学術振興会
ECMOセンター管理を要する新型コロナウイルス感染症患者の口腔内衛生状況の評価	吉野 綾	歯科口腔外科	700,000	補 委	公益財団法人臨床研究奨励基金
トロンボモジュリン製剤を用いた新たな脳梗塞治療戦略の検証	仲村佳彦	救命救急センター	100,000	補 委	日本学術振興会
感染症発症に関与する腸内細菌叢異常を解明	武岡 宏明	総合診療部	800,000	補 委	文部科学省
高感度CRPと冠動脈石灰化との関連を解明する疫学研究	加藤 禎史	総合診療部	1,100,000	補 委	文部科学省
悪性胸膜中皮腫細胞診診断の精度向上に関する研究:新規良悪性鑑別マーカーの探索	濱崎 慎(代表)	病理学講座	600,000	補 委	科研費
EmmprinとCD73の結合阻害薬を開発するための基盤研究 研究課題	青木 光希子(代表)	病理学講座	650,000	補 委	科研費
禁煙に伴う腸内細菌叢を介したHDL機能制御のメカニズムの解明	高田 耕平	臨床検査・輸血部	1,430,000	補 委	日本学術振興会
情報通信技術を用いた遠隔栄養指導有用性の検討	高田 耕平	臨床検査・輸血部	780,000	補 委	日本学術振興会

小計11件
合計85件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Kato Y, Okada A, Amaki M, et al.	循環器内科	Three-dimensional echocardiography for predicting mitral stenosis after MitraClip for functional mitral regurgitation	J Echocardiogr .2022 6月,20(3):151-158	Original Article
2	Suematsu Y, Kuwano T, Yamashita M, et al.	循環器内科	Adult influenza epidemic is associated with out-of-hospital cardiac arrest: From the All-Japan Utstein Registry, a prospective, nationwide, population-based, observational registry	Medicine (Baltimore) .2022 6月,101(24):e29535	Original Article
3	Mouri N, Suematsu Y, Yano Y, et al.	循環器内科	Influence of Discontinuation of Cardiac Rehabilitation in Elderly Outpatients Due to the COVID-19 Pandemic	J Cardiovasc Dev Dis 2022 6月,9(6):194	Original Article
4	Ohnishi N, Shiga Y, Tashiro K, et al.	循環器内科	Association between major adverse cardiovascular events and pentraxin-3 in patients who have undergone coronary computed tomography angiography: from the FU-CCTA registry	Heart Vessels 2023 3月,38(3):309-317	Original Article
5	Nose D, Sugimoto M, Muta T, et al.	循環器内科	Salivary Polyamines Help Detect High-Risk Patients with Pancreatic Cancer: A Prospective Validation Study	Int J Mol Sci 2023 2月,24(3):2998	Original Article
6	Suematsu Y, Miura S, Minei A, et al.	循環器内科	Study Protocol of Cardiac Rehabilitation for Acute Myocardial Infarction From the JROAD/JROAD-DPC Database - JROAD-CR	Circ Rep 2023 1月,5(2):62-65	Original Article
7	Nose D, Inoue H, Imaki K, et al.	循環器内科	Effects of a 14-week community health program of exercise and learning/education in older adults: A single-arm pre-post comparison study	Geriatr Nurs 2023 3月,51:1-8	Original Article
8	Komaki T, Shibata Y, Mine K, et al.	循環器内科	Angiographic findings and treatment of coronary sinus spasm during left ventricular lead placement: A case report	J Cardiol Cases 2022 8月,26(5):367-370	Case report
9	Okutsu S, Futami M, Arimura T, et al.	総合診療部(循環器内科)	Acute Myocarditis with Severe Fever and Thrombocytopenia Syndrome	Intern Med 2022 6月,61(11):1779-1784	Case report
10	Kato Y, Sugihara M, Miura S.	循環器内科	Coexisting mitral regurgitation and a giant coronary aneurysm after mitral valvuloplasty	Eur Heart J Case Rep 2023 2月,7(2):ytad055	Case report
11	Miura S, Suematsu Y, Morita H, et al.	循環器内科	Cardiometabolic Responses to Exercise-Based Cardiac Rehabilitation in Patients With Cardiovascular Diseases	Cardiometab Syndr J 2023 3月,3(1):1-7	Review
12	Hirai F, Uda A, Ota M, et al	消化器内科	Treatment Patterns in Newly Diagnosed Patients with Crohn's Disease Who Received Biologics Following Diagnosis: A Nationwide, Retrospective, Longitudinal, Observational Study Using a Medical Claims Database in Japan	Digestion, 2022 Nov 7 30:1-12,	Original Article
13	Tanaka T, Takata K, Yokoyama K, et al	消化器内科	Pretreatment Modified Albumin-Bilirubin Grade Is an Important Predictive Factor Associated with the Therapeutic Response and the Continuation of Atezolizumab plus Bevacizumab Combination Therapy for Patients with Unresectable Hepatocellular Carcinoma	Curr Oncol. ,2022 Jul 8 29(7):4799-4810	Original Article
14	Yokoyama K, Fukuda H, Yamauchi R, et al	消化器内科	Long-Term Effects of Rifaximin on Patients with Hepatic Encephalopathy: Its Possible Effects on the Improvement in the Blood Ammonia Concentration Levels, Hepatic Spare Ability and Refractory Ascites	Medicina (Kaunas), 2022 Sep 14,58(9):1276	Original Article
15	Tanaka T, Anan A, Takata K, et al	消化器内科	Multipolar radiofrequency ablation via three bipolar electrodes with C-arm type X-ray fluoroscopy assistance for hepatocellular carcinoma: An observational study	Medicine (Baltimore), 2022 Sep 23, 101(38):e30725.(オンライン)	Original Article
16	Ishida Y, Tsunoda T, Hamada Y, et al	消化器内科	Standardized Methods Using EUS-guided Fine-needle Biopsy and a Minimal Medium Creates Three Pancreatic Cancer Organoids	Anticancer Res, 2022 Aug, 42(8): 4103-4109	Original Article

小計16件

17	Koga T, Ishida Y, Hamada Y, et al	消化器内科	High predictive ability of apparent diffusion coefficient value for wall-invasion pattern of advanced gallbladder carcinoma	Abdom Radiol (NY), 2023 Mar, 48(3):902-912	Original Article
18	Ko YL, Matsuoka H, Nomaru R, et al	消化器内科	Observation of the drainage process of the residual lipoma after endoscopic unroofing technique during colonoscopic evaluation of post-procedural hematochezia.	Clin J Gastroenterol, 2022 April, 15(2) : 407-412	Case report
19	Uchida Y, Yokoyama K, Higashi T, et al	消化器内科	Eosinophilic Granuloma of the Liver Mimicking Metastatic Liver Tumor: A Case Report	Intern Med. 2022 May 15, 61(10):1511-1517	Case report
20	Takata K, Fukunaga A, Nishizawa S, et al	消化器内科	Multiple focal fatty changes in the liver in patients with porphyria cutanea tarda: A case series and review of the literature	J Clin Ultrasound 2022 Jul, 50(6):832-842	Case report
21	Takata K, Mogi A, Yamauchi R, et al	消化器内科	Pseudocirrhosis Due to Desmoplastic Response to Chemotherapy in Breast Cancer Liver Metastases	Cureus, 2022 May 25, 14(5):e25321(オンライン)	Case report
22	Yamauchi R, Takata K, Fukunaga A, et al	消化器内科	Improvement of vanishing bile duct syndrome with hyperlipidemia	Clin J Gastroenterol, 2022.Aug, 15(4):784-790	Case report
23	Koga T, Ishida Y, Hirai F.	消化器内科	Operative findings of the migrated stent into the abdominal cavity following endoscopic ultrasound-guided hepaticogastrostomy: Anchoring force of a novel self-expandable metal stent with an anti-migration system (with video).	J Hepatobiliary Pancreat Sci, 2022 Aug;29(8):e79-e80.	Case report
24	Ishida Y, Tsuchiya N, Koga T, et al	消化器内科	A novel self-assembling peptide hemostatic gel as an option for initial hemostasis in endoscopic sphincterotomy-related hemorrhage: a case series	Clin J Gastroenterol, 2022 Dec, 15(6):1210-1215	Case report
25	Nagata T, Takeyama Y, Shakado S, et al	消化器内科	Familial Primary Biliary Cholangitis With Different Clinical Courses Based on Anti-gp210 Antibody Positivity: A Report of Two Cases	Cureus, 2023 Jan 27, 15(1):e34275(オンライン)	Case report
26	Nakao A, Inoue H, Ikeuchi N, et al.	呼吸器内科	Impact of Results of TTF-1 Immunostaining on Efficacy of Platinum-Doublet Chemotherapy in Japanese Patients with Nonsquamous Non-Small-Cell Lung Cancer.	J Clin Med. 2022 Dec 24;12(1):137. doi: 10.3390/jcm12010137. PMID: 36614938	Original Article
27	Ikeuchi N, Igata F, Kinoshita E, et al.	呼吸器内科	Real-world Efficacy and Safety of Atezolizumab Plus Bevacizumab, Paclitaxel and Carboplatin for First-line Treatment of Japanese Patients With Metastatic Non-squamous Non-small Cell Lung Cancer.	Anticancer Res. 2023 Feb;43(2):713-724. doi: 10.21873/anticancer.16210. PMID: 36697078	Original Article
28	Fujita M, On R, Matsumoto T, et al.	呼吸器内科	Efficacy and Safety of Sifloxacin in Treating Low-risk Febrile Neutropenia in Patients with Lung Cancer.	JMA J.2022, Jul 15;5(3):334-340. doi: 10.31662/jmaj.2021-0227. Epub 2022 May 23.	Original Article
29	Shundo Y, On R, Matsumoto T, et al.	呼吸器内科	TNFR1 Mediated Apoptosis Is Protective against Mycobacterium avium in Mice	Microorganisms. 2023 Mar; 11(3): 778. doi: 10.3390/microorganisms11030778 PMID: 36985352	Original Article
30	Nagamitsu S, Kanie A, Sakashita K, et al.	小児科	Adolescent Health Promotion Interventions Using Well-Care Visits and a Smartphone Cognitive Behavioral Therapy App: Randomized Controlled Trial	JMIR Mhealth Uhealth. 2022 May 23;10(5) e34154	Original Article
31	Matsuoka M, Matsuishi T, Nagamitsu S, et al.	小児科	Sleep disturbance has the largest impact on children's behavior and emotions	Front Pediatr. 2022 Nov 28;10:1034057	Original Article
32	Ishii R, Obara H, Nagamitsu S, et al.	小児科	The Japanese version of the children's sleep habits questionnaire (CSHQ-J): A validation study and influencing factors	Brain Dev. 2022 6月 Oct;44(9):595-604	Original Article
33	Setoue T, Yatsuga S, Ito K, et al.	小児科	An exploratory study to identify neonatal arterial ischemic stroke: A single-center study	Brain Dev. 2022 9月 Nov;44(10):672-680	Original Article
34	Kubota K, Nagakura KI, Itonaga T, et al.	小児科	Macadamia nut-specific IgE levels for predicting anaphylaxis	Pediatr Allergy Immunol. 2022 Sep;33(9):e13852	Original Article
35	Horikawa Y, Yatsuga S, Ohya T, et al.	小児科	Laryngotracheal separation surgery in a patient with severe Angelman syndrome involving a 19.3 Mb deletion on 15q11.2-q14	Clin Case Rep. 2022 Nov;10(11):e6545	Case report
36	Sakamoto M, Iwama K, Nagamitsu S, et al.	小児科	Genetic and clinical landscape of childhood cerebellar hypoplasia and atrophy	Genet Med, 2022 Oct 28;24(12):2453-2463	Original Article

37	Ueda Y, Somamoto S, Kawabata S, et al.	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Development of a Novel Material to Promote Wound Healing at Bronchial Defects.	doi: 10.1016/j.athoracsur.2022.06.026. Online ahead of print. Epub 2022/7	Original Article
38	Ueda Y, Mitsumata S, Matsunaga H, et al.	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	Use of a radiofrequency identification system for precise sublobar resection of small lung Cancers.	doi: 10.1007/s00464-022-09768-9. Epub 2022/11	Original Article
39	Tanaka H, Soejima O, Muraoka K, et al.	整形外科	Prognostic factors and clinical features in metacarpophalangeal joint hyperextension after ligament reconstruction with trapeziectomy: A retrospective cohort study.	J Orthop Sci. 2022 Apr 13;S0949-2658(22)00077-X.	Original Article
40	Fujita J, Doi N, Kinoshita K, et al.	整形外科	Rate of Return to Work After Periacetabular Osteotomy and Its Influencing Factors.	J Bone Joint Surg Am. 2022 Apr 20;104(8):732-738.	Original Article
41	Shibata T, Izaki T, Nishio J, et al.	整形外科	Are there differences in arthroscopic and histological features between traumatic and degenerative rotator cuff tears in elderly patients? A prospective dual-center analysis.	J Orthop Surg Res. 2022 Apr 7;17(1):206.	Original Article
42	Sugino Y, Yoshimura I, Hagio T, et al.	整形外科	Reliability of various diastasis measurement methods on weightbearing radiographs in patients with subtle Lisfranc injuries.	Skeletal Radiol. 2022 Apr;51(4):801-806.	Original Article
43	Sasaki S, Maeyama A, Kiyama T, et al.	整形外科	Combined use of beta-tricalcium phosphate with different porosities can accelerate bone remodelling in open-wedge high tibial osteotomy.	Asia Pac J Sports Med Arthrosc Rehabil Technol. 2022 Jul 5;29:30-34.	Original Article
44	Nakayama S, Kobayashi E, Nishio J, et al.	整形外科	Prognostic Factors of Pulmonary Metastasectomy for Soft Tissue Sarcomas Arising in the Trunk Wall and Extremities.	Cancers (Basel). 2022 Jul 8;14(14):3329.	Original Article
45	Yamasaki Y, Maeyama A, Miyazaki K, et al.	整形外科	Evaluation of the hindfoot alignment before and after total knee arthroplasty.	J Clin Orthop Trauma. 2022 Jul 9;31:101947.	Original Article
46	Doi K, Kinoshita K, Sakamoto T, et al.	整形外科	Mechanical Influence of Pubic Nonunion on the Stress Distribution After Curved Periacetabular Osteotomy: Patient-Specific Three-Dimensional Finite Element Analysis.	J Arthroplasty. 2022 Jul;37(7):1390-1395	Original Article
47	Suzuki M, Kinoshita K, Sakamoto T, et al.	整形外科	Utility of anterior wall of greater trochanter in predicting femoral anteversion angle: a three-dimensional computed tomography-based simulation study.	J Orthop Surg Res. 2022 Sep 10;17(1):412.	Original Article
48	Kudo Y, Maeyama A, Ishimatsu T, et al.	整形外科	Changes in patellar baja progress until 3 months after medial open-wedge high tibial osteotomy.	J Orthop Surg (Hong Kong). 2022 Sep-Dec;30(3):10225536221128615.	Original Article
49	Ishimatsu T, Takeuchi R, Ishikawa H, et al.	整形外科	Clinical outcomes of hybrid closed wedge high tibial osteotomy for advanced osteoarthritis of the knee compared with total knee arthroplasty.	J Orthop Surg (Hong Kong). 2022 Sep-Dec;30(3):10225536221137754.	Original Article
50	Maeyama A, Asayama I, Ishimatsu T, et al.	整形外科	Effect of the posterior sagging control device to the posterior tibial translation during posterior-stabilized total knee arthroplasty with modified gap technique.	J Orthop Surg (Hong Kong). 2022 Sep-Dec;30(3):10225536221144715.	Original Article
51	Ishimatsu T, Yoshimura I, Kanazawa K, et al.	整形外科	Ankle bone morphology affects the size of non-trauma related osteochondral lesions of the talus in skeletally immature children.	J Orthop Sci. 2022 Nov 30;S0949-2658(22)00329-3.	Original Article
52	Miyake S, Izaki T, Arashiro Y, et al.	整形外科	Excessively High Repair Tension Decreases Microvascular Blood Flow Within the Rotator Cuff.	Am J Sports Med. 2022 Nov;50(13):3643-3648.	Original Article
53	Ishimatsu T, Takeuchi R, Ishikawa H, et al.	整形外科	Femoral morphology affects postoperative alignment of the lower extremities in hybrid closed-wedge high tibial osteotomy.	Arch Orthop Trauma Surg. 2022 Dec;142(12):3675-3685.	Original Article
54	Oda T, Maeyama A, Yoshimura I, et al.	整形外科	Soft tissue stabilization of the hinge position in medial closed wedge distal femoral osteotomy: an anatomical study.	BMC Musculoskelet Disord. 2022 Dec 19;23(1):1105.	Original Article
55	Sugino Y, Yoshimura I, Hagio T, et al.	整形外科	Effect of plantar fascia-specific stretching and Achilles tendon stretching on shear wave elasticity of the plantar fascia in healthy subjects	Foot Ankle Surg. 2023 Jan 7;S1268-7731(23)00004-8.	Original Article
56	Miyazaki K, Maeyama A, Yoshimura I, et al.	整形外科	Influence of hindfoot alignment on postoperative lower limb alignment in medial opening wedge high tibial osteotomy.	Arch Orthop Trauma Surg. 2023 Jan;143(1):81-90.	Original Article

57	Kinoshita S, Ishimatsu T, Suzuki M, et al.	整形外科	Femoral nerve status during the anterolateral approach for total hip arthroplasty: Motor-evoked potential analysis and an influencing factor	J Orthop Sci. 2023 Jan;28(1):152-155.	Original Article
58	Nakayama S, Nishio J, Aoki M, et al.	整形外科	GLUT-1 expression is helpful to distinguish myxofibrosarcoma from nodular fasciitis.	Histol Histopathol. 2023 Jan;38(1):47-51	Original Article
59	Kinoshita K, Seo H, Matsunaga T, et al.	整形外科	Clinical Outcomes for Total Hip Arthroplasty with and without Previous Curved Periacetabular Osteotomy.	J Clin Med. 2023 Jan 15;12(2):694.	Original Article
60	Suzuki, M., Kinoshita, K., Sakamoto, T., et al.	整形外科	Short-term outcomes of curved periacetabular osteotomy and factors influencing patient dissatisfaction	Journal of Hip Preservation Surgery 2023 Jan 25;10(1):17-23.	Original Article
61	Shibata T, Izaki T, Miyake S, et al.	整形外科	Efficacy of bone marrow stimulation for arthroscopic knotless suture bridge rotator cuff repair: A prospective randomized controlled trial.	J Shoulder Elbow Surg. 2023 Feb 13:S1058-2746(23)00080-0.	Original Article
62	Fujita J, Kinoshita K, Sakamoto T, et al.	整形外科	The role of torsional stress in the development of subchondral insufficiency fracture of the femoral head: A finite element model analysis.	J Orthop Sci. 2023 Feb 21:S0949-2658(23)00023-4.	Original Article
63	Suzuki M, Kinoshita K, Sakamoto T, et al.	整形外科	Side-to-side variability in the femoral neck anteversion angle: A study of the Japanese population with osteonecrosis of the femoral head.	J Orthop Sci. 2023 Mar 4:S0949-2658(23)00059-3.	Original Article
64	Nakayama S, Nishio J, Aoki M, et al.	整形外科	t(1;2)-Positive Localized Tenosynovial Giant Cell Tumor With Bone Invasion.	In Vivo. 2022 Sep-Oct;36(5):2525-2529.	Case report
65	Nakayama S, Nishio J, Nagao S, et al.	整形外科	Arthroscopic Excision of Intra-articular AHRR-NCOA2- positive Angiofibroma of Soft Tissue of the Knee: A Case Report.	Cancer Diagn Progn. 2022 Sep 3;2(5):592-597.	Case report
66	Shimada T, Maeyama A, Hagio T, et al.	整形外科	A case of extrapulmonary tuberculosis after use of baricitinib.	Mod Rheumatol Case Rep. 2022 Dec 26:rxac098.	Case report
67	Maeyama A, Ishimatsu T, Yamasaki Y, et al.	整形外科	The Effectiveness of An Arthroscopic Procedure Combined with High Tibial Osteotomy in Decreasing the Levels of Knee Osteoarthritis Biomarkers.	J Invest Surg. 2022 Apr;35(4):898-899.	Review
68	Nakayama S, Nishio J, Aoki M, Koga K, et al.	整形外科	Angiofibroma of soft tissue: Current status of pathology and genetics.	Histol Histopathol. 2022 Aug;37(8):717-722.	Review
69	Koga M, Nishio J, Koga T, Koga K, et al.	整形外科	An Update on Clinicopathological, Imaging, and Genetic Features of Angioleiomyoma.	Cancer Diagn Progn. 2023 Mar 3;3(2):145-150.	Review
70	De Francesco F, Riccio M, Jimi S.	形成外科	Contribution of Topical Agents such as Hyaluronic Acid and Silver Sulfadiazine to Wound Healing and Management of Bacterial Biofilm. Management of Bacterial Biofilm.	Medicina (Kaunas) 2022 6月,58(6):835	Original Article
71	Hayashi Y, Mishima T, Fujioka S, et al	脳神経内科(脳神経外科)	Unilateral GPI-DBS Improves Ipsilateral and Axial Motor Symptoms in Parkinson's disease as evidenced by a brain perfusion SPECT study.	Frontiers in Human Neuroscience. 2022 May 11;16:888701	Original Article
72	Oda K, Morishita T et al	脳神経外科	Pain Relief Following Selective Tibial Neurotomy for Spastic Equinus Foot Secondary to Stroke and Traumatic Brain Injury.	World Neurosurgery 2022 7月,166:583-589	Original Article
73	Masato Furui, Pau Kiew Kong, Paneer Selvam Krishna Moorthy, et al.	心臓血管外科	Risk factors for sternal wound infection after coronary artery bypass grafting in patients with and without diabetes.	International Heart Journal 2022 May,63(3): 426-432	Original Article
74	Masato Furui, Yoshihiko Sakurai, Bunpachi Kakii, et al.	心臓血管外科	Benefits and Risks of Delayed Surgery for Ventricular Septal Rupture After Acute Myocardial Infarction.	International Heart Journal 2022 Nov 63(3): 433-440,	Original Article
75	Sato E, Maeyama A, Yamasaki Y, et al.	皮膚科	Impact of Preoperative Metal Patch Testing on Surgery Using Metal Implants.	Arthroplast Today.2022 April ; 21;14:170-174	Case report
76	Nakamura K, Sato E, Imafuku S.	皮膚科	A case of erythema nodosum concomitant with ulcerative colitis relieved by tofacitinib	Dermatol Ther.2022 Dec; 35(12):e15963	Original Article
77	Takano-Kawasaki S, Sato E, Yamaguchi K, et al.	皮膚科	Trends in prescriptions of oral medications for psoriasis: A single-center retrospective study.	J Dermatol. 2023 Jan;50(1):82-88	Original Article

78	Kazuna Tsubouchi, Naotaka Gunge, Kosuke Tominaga et al.	腎泌尿器外科	Efficacy of the opened legs position for protecting against postoperative rhabdomyolysis after robot-assisted radical prostatectomy: A propensity score-matched analysis of perioperative outcomes	International Journal of Urology,2022.10, 29(10): 1132-1138	Original Article
79	Takeshi Miyazaki, Shintaro Aso, Masahiro Tachibana et al.	腎泌尿器外科	Exacerbation of urinary storage symptoms by the psychological stress induced by the COVID-19 pandemic.	In vivo, 2022.11,36(6): 2800-2805,	Original Article
80	Gunge N, Miyazaki T, Okabe Y et al.	腎泌尿器外科	Equivalence of Immunological Response to COVID-19 Vaccination in Prostate Cancer Patients.	Austin J Urol,2022.10, 8(1): 1077,	Original Article
81	Kazuna Tsubouchi, Naotaka Gunge, Wataru Matsuoka et al.	腎泌尿器外科	Drugs Showing Real-world Efficacy for Nocturia in Patients With Bladder Storage Symptoms	Anticancer Research,2023.1, 43: 455-461	Original Article
82	Hirakawa T, Yotsumoto F, Shirasu N, et al.	産婦人科	Trophic and Immunomodulatory effects of adipose tissue derived stem cells in a preclinical murine model of endometriosis	Scientific Reports* 2022 Dec; (オンライン)	Original Article
83	Yotsumoto F, Sanui A, Ito T, et al.	産婦人科	Cumulative Summation Analysis of Learning Curve for Robotic-assisted Hysterectomy in Patients with Gynecologic Tumors	Anticancer Research* 2022 Dec; 42:4111-4117	Original Article
84	Urushiyama D, Shibata M, Hata K, et al.	産婦人科	Problems and Solutions in the Perinatal Management of Intrauterine Infection/Inflammation	J Infect Dis Ther* 2022 Dec; 10:509	Review
85	Takayama Y, Nishie A, Ishimatsu K, et al.	放射線科	Diagnostic potential of T1 ρ and T2 relaxations in assessing the severity of liver fibrosis and necro-inflammation	Magn Reson Imaging. 2022 4月; 87: 104-112.	Original Article
86	Takayama Y, Nishie A, Okamoto D, et al.	放射線科	Differentiating Liver Hemangioma from Metastatic Tumor Using T2-enhanced Spin-echo Imaging with a Time-reversed Gradient-echo Sequence in the Hepatobiliary Phase of Gadoteric Acid-enhanced MR Imaging	Magn Reson Med Sci. 2022 7月; 21(3): 445-457.	Original Article
87	Sakamoto K, Tanaka S, Sato K, et al.	放射線科	What is the "washout" of hepatocellular carcinoma as observed on the equilibrium phase CT?: consideration based on the concept of extracellular volume fraction	Jpn J Radiol. 2022 11月; 40(11): 1148-1155.	Original Article
88	Takashi Y, Toyokawa K, Oda N, et al.	内分泌・糖尿病内科	Combined treatment by burosumab and a calcimimetic can ameliorate hypophosphatemia due to excessive actions of FGF23 and PTH in adult XLH with tertiary hyperparathyroidism: A case report.	Front Endocrinol. 2022 Dec 2, 13:1004624.	Case report
89	Nagaki K, Fujioka S, Sasai H, et al.	脳神経内科	Physical Activity and Its Diurnal Fluctuations Vary by Non-Motor Symptoms in Patients with Parkinson's Disease: An Exploratory Study.	Healthcare (Basel).2022 Apr. 10(4):749.	Original Article
90	Mishima T, Fujioka S, Kawazoe M, et al.	脳神経内科	Constipation Symptoms in Multiple System Atrophy Using Rome Criteria and Their Impact on Personalized Medicine.	J Pers Med. 2022 May.12(5):838.	Original Article
91	Kakimoto A, Ogura H, Suenaga M, et al.	脳神経内科	Role of cytochrome P450 for vitamin D metabolisms in patients with neurodegenerative disorders.	Clin Park Relat Disord.2022 Aug 27;7:100162.(オンライン)	Original Article
92	Takeshita S, Ogata T, Uesugi N, et al.	脳神経内科	Early Enhancement with Contrast-Enhanced Ultrasonography Relates to the Number of Small-Diameter Neovessels in the Carotid Plaque.	Cerebrovasc Dis.2023 Jan. 52(1):36-43.	Original Article
93	Fujioka S, Mishima T, Yamazaki T, et al.	脳神経内科	Neurologists' preferences for device-aided therapy for advanced Parkinson's disease in Japan.	Curr Med Res Opin. 2023 Jan. 39(1):91-104.	Original Article
94	Tamaki K, Mishima T, Tateishi Y, et al.	脳神経内科	HTLV-1-associated demyelinating neuropathy: A case report and review of the literature.	eNeurologicalSci. 2023 Feb 20;31:100453..(オンライン)	Case report
95	Yokote A, Fujioka S, Takahashi N, et al.	脳神経内科	Polymyalgia Rheumatica Following COVID-19 Vaccination.	Intern Med.2022 Jun. 61(11):1775-1777.	Case report
96	Kajiwara M, Ishi F, Sasaki T et al.	消化器外科	Crucial Roles of the Assistant Surgeon During Laparoscopic Left Hemihpatectomy	Cureus 2022年4月	Original Article
97	Kajiwara M, Fujikawa T, Hasegawa S	消化器外科	Tissue pad degradation of ultrasonic device may enhance thermal injury and impair its sealing performance in liver surgery	World Journal Hepathology 2022年7月	Original Article

98	Kajiwara M, Nakashima R, Sasaki T et al.	消化器外科	Dissection Around the Superior Mesenteric Artery (SMA) Using LigaSure Maryland During Left Posterior Approach for Pancreaticoduodenectomy	Cureus 2022年7月	Others
99	Hayashi T, Yoshida Y, Yamada T et al.	消化器外科	Relationship between perioperative oncological evaluation and recurrence using circulating tumor DNA with KRAS mutation in patients with colorectal cancer	Cancer Medicine 2022年8月	Original Article
100	Shiwaku H, Hasegawa S, Inoue H et al.	消化器外科	Risk factors and long-term course of gastroesophageal reflux disease after peroral endoscopic myotomy: A large-scale multicenter cohort study in Japan	Endoscopy 2022年9月	Original Article
101	Kajiwara M, Nakashima R, Yoshimura F et al.	消化器外科	Impact of AirSeal® Insufflation System on Respiratory and Circulatory Dynamics, during Laparoscopic Abdominal Surgery	Updates Surg. 2022年12月	Original Article
102	Nagano H, Kajitani R, Ohno R et al.	消化器外科	Comparison of oncological outcomes between low anterior resection and abdominoperineal resection for rectal cancer: A retrospective cohort study using a multicenter database in Japan	Eur J Surg Oncol. 2022年12月	Original Article
103	Watanabe T, Ohne R, Kajitani R et al.	消化器外科	Comparison of changes in health-related quality of life between elderly and non-elderly patients undergoing elective surgery for colorectal cancer	Research Square 2023年3月	Original Article
104	Nakano R, Waters B, Hara K et al.	麻酔科	Diagnostic meaning of urinary ethyl glucoside concentrations in relationship to alcoholic beverage consumption	Legal Medicine,2022 Nov, 59: 102142, .(online)	Original Article
105	Ryosuke Mano, Tomoko Tanaka, Shiho Hashiguchi,et al.	歯科口腔外科	Induction of potassium channel regulator KCNE4 in a submandibular lymph node metastasis model	Scientific reports,2022 8月, 12(1): 13208 [DOI: 10.1038/s41598-022- 15926-9]	Original Article
106	Taisei Sano , George Umemoto (Corresponding Author) , Shinsuke Fujioka, et al.	歯科口腔外科	Relationship between motor dysfunction and chewing movement in patients with Parkinson's disease: A transversal study	Front Neurol.2022 12月 9;13:1062134. [DOI: 10.3389/fneur.2022.10621 34. eCollection]	Original Article
107	Shintaro Ishida, Ryosuke Kita, Shiho Hashiguchi, et al.	歯科口腔外科	Submental tracheal intubation in a school-age child with maxillofacial trauma: Our techniques and devices.	Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology 2022 11月,34(6): 769-771 [DOI:10.1016/j.ajoms.2022. 05.004]	Case report
108	Yoshihiko Nakamura, Taisuke Kitamura, Yasumasa Kawano, et al	救命救急センター	Glial fibrillary acidic protein level on admission can predict severe traumatic brain injury in patients with severe multiple trauma: A single-center retrospective observational study	Current Research in Neurobiology* doi.org/2022.8月 /10.1016/j.crneur.100047	Original Article
109	Ishikura H, Irie Y, Kawamura M, et al.	救命救急センター	Early recognition of sepsis-induced coagulopathy using the C2PAC index: a ratio of soluble type C lectin-like receptor 2 (sCLEC-2) level and platelet count.	Platelets* 2022 Aug 18;33(6):935- 944.	Original Article
110	Hiroyasu Ishikura, Junichi Maruyama, Maiko Nakashio, et al	救命救急センター	Daily combined measurement of platelet count and presepsin concentration can predict in-hospital death of patients with severe coronavirus disease 2019 (COVID-19)	International Journal of Hematology* Published Online 15 March, 2023 https://doi.org/10.1007/s 12185-023-03555-5	Original Article
111	Nabeshima A, Sakamoto A, Iwata K, et al.	総合診療部	Maoto, a traditional herbal medicine, for post-exposure prophylaxis for Japanese healthcare workers exposed to COVID-19: A single center study	J Infect Chemother .2022 7月,28(7) : 907-91	Original Article
112	Sakamoto A, Yoshimura M, Itoh R, et al.	総合診療部	Longitudinal dynamics of SARS-CoV-2 IgG antibody responses after the two-dose regimen of BNT162b2 vaccination and the effect of a third dose on health care workers in Japan	Vaccines 2022 5月,10(6) : 1-16,	Original Article
113	Okutsu S, Futami M, Arimura T, et al.	総合診療部	Acute myocarditis with severe fever and thrombocytopenia syndrome	Intern Med 2022 6月,61:1779-1784,	Case report

114	Prakasit Sa-Ngiamwibool, Makoto Hamasaki, Yoshiaki Kinoshita et al.	病理部	Challenges and limitation of MTAP immunohistochemistry in diagnosing desmoplastic mesothelioma/sarcomatoid pleural mesothelioma with desmoplastic features.	Ann Diagn Pathol.2022,Jun 60: 152004,	Original Article
115	Kazuki Nabeshima, Makoto Hamasaki, Yoshiaki Kinoshita, et al.	病理部	Update of pathological diagnosis of pleural mesothelioma using genomic-based morphological techniques, for both histological and cytological investigations.	Pathology International.2022, Aug 72(8): 389-401	Original Article
116	Prakasit Sa-ngiamwibool, Makoto Hamasaki, Yoshiaki Kinoshita, et al.	病理部	Usefulness of NF2 hemizygous loss detected by fluorescence in situ hybridization in diagnosing pleural mesothelioma in tissue and cytology material: A multi-institutional study	Lung Cancer. 2023, Jan 175: 27-35,	Original Article
117	Yuki Yasutaka, Shinsuke Fujioka, Yoshio Tsuboi et al.	薬剤部	Liver toxicity of intravenous heparin treatment in patients with acute ischemic stroke	Clinical Neurology and Neurosurgery, 2023.Feb/https://doi.org/10.1016/j.clineuro.107630	Original Article
118	Yamada H, Motoyama M, Hasegawa N, et al.	精神神経科	A dissemination and education programme to improve the clinical behaviours of psychiatrists in accordance with treatment guidelines for schizophrenia and major depressive disorders: the Effectiveness of Guidelines Education in Psychiatric Treatment (EGUIDE) project.	BJPsc. Open,2022 4月 21; 8(3): e83,	Original Article
119	Aoki Y, Takaesu Y, Baba H, et al.	精神神経科	Development and acceptability of a decision aid for major depressive disorder considering discontinuation of antidepressant treatment after remission.	Neuropsychopharmacol. Rep. 2022 Sep,42(3): 306-314,	Original Article
120	Inada K, Fukumoto K, Hasegawa N, et al.	精神神経科	Development of individual fitness score for conformity of prescriptions to the "Guidelines For Pharmacological Therapy of Schizophrenia"	Neuropsychopharmacol. Rep. 2022 10月,42(4): 502-509,	Original Article
121	Hori H, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, et al.	精神神経科	Prescription of anticholinergic drugs in patients with schizophrenia: analysis of antipsychotic prescription patterns and hospital characteristics.	Front. Psychiatry. 2022 5月,13: 823826,	Original Article
122	Ochi S, Tagata H, Hasegawa N, Yasui-Furukori N, et al.	精神神経科	Clozapine treatment is associated with higher prescription rate of antipsychotic monotherapy and lower prescription rate of other concomitant psychotropics: A real-world nationwide study.	Int. J. Neuropsychopharmacol. 2022 10月,25(10): 818-826,	Original Article

123	Tajika A, Hori H., Iga JI, Koshikawa Y, et al.	精神神経科	Mood stabilizers and antipsychotics for acute mania: Systematic review and meta-analysis of augmentation therapy versus monotherapy from the perspective of time to the onset of treatment effects.	Int. J. Neuropsychopharmacol . 2022 10月,25(10): 839-852,	Original Article
124	Muraoka H, Kodaka F, Hasegawa N, et al.	精神神経科	Characteristics of the treatments for each severity of major depressive disorder: A real-world multi-site study	Asian journal of psychiatry 2022 Aug;74:103174.	Original Article
125	Fukumoto K, Kodaka F, Hasegawa N, et al.	精神神経科	Development of an individual fitness score (IFS) based on the depression treatment guidelines of in the Japanese Society of Mood Disorders.	Neuropsychopharmacol. Rep. 2022 11月	Original Article
126	Kyou Y, Yasui-Furukori N, Hasegawa N, et al.	精神神経科	The characteristics of discharge prescriptions including pro re nata psychotropic medications for patients with schizophrenia and major depressive disorder from the survey of the “Effectiveness of guidelines for dissemination and education in psychiatric treatment (EGUIDE)” project	Ann. Gen. Psychiatry 2022 12月,21(1): 52	Original Article
127	Tsuboi T, Takaesu Y, Hasegawa N, et al.	精神神経科	Effects of electroconvulsive therapy on the use of anxiolytics and sleep medications: a propensity score-matched analysis.	Psychiatry. Clin. Neurosci 2023 1月,77(1): 30-37	Original Article
128	Ogasawara K, Numata S, Hasegawa N, et al.	精神神経科	Subjective assessment of participants in education programs on clinical practice guidelines in the field of psychiatry.	Neuropsychopharmacology reports 2022 Jun;42(2):221-225.	Original Article
129	Li W, Zhang Q, Tang Y,et al.	精神神経科	Network analysis of psychiatric symptoms in schizophrenia: Findings from the Research on Asian Psychotropic Prescription Patterns for Antipsychotics (REAP-AP).	Asian journal of psychiatry 2022 Sep;75:103200.	Original Article

130	Okada T, Hori H, Hasegawa N, et al.	精神神経科	Second-Generation Antipsychotic Monotherapy Contributes to the Discontinuation of Anticholinergic Drugs in Hospitalized Patients With Schizophrenia.	Journal of clinical psychopharmacology, 2022 Nov-Dec 01;42(6):591-593.	Original Article
131	Asada R, Ogushi Y, Hori H, et al.	精神神経科	Successful treatment for major depressive disorder with psychotic features with addition of asenapine on escitalopram.	Psychogeriatrics. 22: 413-414, 2022 5月	Case report
132	Takagi S, Hori H, Yamaguchi T, et al.	精神神経科	Motor functional characteristics in Attention Deficit/Hyperactivity Disorder and Autism Spectrum Disorders: A Systematic Review.	Neuropsychiatr Dis Treat 2022 12月18: 1679-1695,	Review
133	Oda K, Amamoto T, Enomoto T et al	脳神経外科	Favorable management of symptomatic cerebellar hemangioblastoma presenting with obstructive hydrocephalus during pregnancy: a case report and literature review.	Surgical Neurology International. 2022 4月 13(174): DOI: 10.25259/SNI_105_	Case report
134	Oda K, Morishita T	脳神経外科	Case Report: Radiofrequency Thalamotomy as Palliative Care for Holmes Tremor in a Patient with Terminal Cancer and Cardiac Pacemaker.	Surgical Neurology International 2022 10月 13(484) DOI: 10.25259/SNI_618_	Case report
135	Enomoto T, Aoki M, Takahara M et al	脳神経外科	A case of pituitary adenoma with infiltration into the sphenoid sinus accompanied by melanocyte proliferation	Clinical Neuropathology 2022 8月 41(4):179-184,	Case report

小計6件
合計135件

- (注)
- 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)
 - 3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。
 - 4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。
「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
 - 5 (出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。
記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)
 - 6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	志賀悠平、村岡聡一、杉原英和、他	循環器内科	急性期病院医師による心不全連携と在宅医療の可能性	臨牀指針 99(9):83-87,2022 9月	Original Article
2	今泉聡、三浦伸一郎	循環器内科	持続可能な臨床研究を導く利益相反管理における徳倫理的アプローチの考察	福岡大学医学紀要 49(2):63-70,2022 9月	Original Article
3	三浦江里香、神村英利、三浦伸一郎	薬剤部(循環器内科)	各種降圧薬の特性と使い方 ARB	臨牀と研究 100(1):24-28,2023 1月	Original Article
4	北島研、三浦伸一郎	卒後臨床研修センター(循環器内科)	心臓リハビリテーションと抗加齢のための運動	Medical Science Digest 48(5):32-35,2022 5月	Review
5	森田英剛、朔啓太	循環器内科	心原性ショックの新しいデバイス治療	Heart View 27(1):78-83,2023 1月	Review
6	廣田悠治、福永篤志、高田和英、他	消化器内科	内視鏡的胆道ドレナージが有効であった免疫チェックポイント阻害薬関連硬化性胆管炎の一例	福岡大学医学紀要、2022年9月、49(2):101-106	Case report
7	平井 郁仁、久能 宣昭、阿部 光市	消化器内科	Crohn病の診断と治療 最近の動向を含めて	Gastroenterol Endosc、 2022年7月、64(7):1315-1325	Review
8	藤田昌樹	呼吸器内科	大きく変わった?ステロイドの使い方 気管支喘息・COPD	臨牀と研究・ 2022:99:1195-1198 2022年10月	Review
9	吉村 力、宮地律子、有馬久富	呼吸器内科	在宅睡眠呼吸検査のウェアラブルシステムと将来像 -OSASを中心に-	睡眠医療・2022;16:29-35 2022年 7月	Review
10	吉村 力、有馬 久富	呼吸器内科	睡眠呼吸障害(SDB)と認知症 一般人、軽度認知障害(MCI)、認知症における SDB の有病率	睡眠医療・2022 7 月;16:124-130	Review
11	春藤裕樹	呼吸器内科	肺移植後のサイトメガロウイルス感染状況と感染予防プロトコール	胸部外科・2022;75:278-283 2022 4月	Others
12	堀 輝	精神神経科	統合失調症と呼吸器疾患:薬理学的視点を中心に	臨床精神薬理 25(4): 405-411, 2022 4月	Review
13	堀 輝	精神神経科	気分障害のゴールにつながる評価法	臨床精神医学 51(6): 645-649, 2022 6月	Review
14	堀 輝	精神神経科	ベンゾジアゼピン受容体作動薬による認知機能障害への対応	精神科 41(3): 414-418, 2022 9月	Review
15	堀 輝	精神神経科	うつ病(急性期)	精神医学増刊号 64(5): 608-612, 2022 5月	Review
16	井手健太、堀 輝	精神神経科	錐体外路系副作用とSDM	日本精神薬学会誌 6(1): 15-19, 2022 10月	Review
17	北井 良和、飯田 仁志	精神神経科	「高齢者と社会のつながり」という視点からみた老年期の幻覚・妄想	九州神経精神医学 68(1):3-8, 2022.12	Review
18	飯田 仁志	精神神経科	コロナ禍からデイケアを考える コロナから守る、コロナから学ぶ 福岡大学病院精神科デイケアにおける集団活動の取り組み	デイケア実践研究 26(1):66-69, 2022.10	Review
19	松岡 秀樹、増田 将人、飯田 仁志、川崎 弘詔	精神神経科	【身体科と精神科の連携-身体科に必要な精神疾患の基礎知識】統合失調症	カレントセラピー 40(10):947-951, 2022.10	Review
20	鈴木 総一郎、飯田 仁志、川崎 弘詔	精神神経科	【臨床医が一度は考えてみたい治療終結のポイント】気分障害で治療の終了(中断)を考えると	精神科 40(5):701-707, 2022.05	Review
21	衛藤暢明、川崎弘詔	精神神経科	自殺の動向	精神科 40(5):631-641,2022 5月	Review
22	衛藤暢明、石田匡宏、浦田裕美、川崎弘詔	精神神経科	子どもの自殺・自傷の精神医学	小児科 63(12):1361-1367,2022 11月	Review
23	衛藤暢明、浦田裕美、増田将人、川崎弘詔	精神神経科	精神科医の立場から見たCOVID-19流行下における中毒患者	中毒研究 35: 291-297,2022 9月	Review
24	堀 輝(分担)、 飯田仁志(分担)	精神神経科	統合失調症薬物治療ガイドライン2022	医学書院 2022年6月	Others

25	飯田 仁志(分担)	精神神経科	エンド オブ ライフ ケア すべての人の命とくらしのために1版	南山堂 pp.406-412, 2022 7月	Others
26	堀内 清華, 秋山 有佳,,,永光 信一郎, 他	小児科	市区町村における母子保健情報の電子化および利活用の現状と課題	日本公衆衛生雑誌 2022 12月,69(12):948-956	Original Article
27	永光信一郎	小児科	【精神疾患診療】(第3部)特定の場面で遭遇する精神科的問題 他科からみた精神科的問題 小児科領域の心身医学	日本医師会雑誌 2022,151(特別号):307-308 10月	Review
28	永光信一郎	小児科	【子どもの健康を守る教育と医療の連携】小児心身症と学校生活での留意点	教育と医学 2022,5:208-215 5月	Review
29	永光信一郎	小児科	健康な学童～思春期のこどもを診る	東京小児科医会報 2022,41(2):3-8 9月	Review
30	永光信一郎	小児科	思春期健診の社会実装化に向けた課題	福岡県小児科医報 2022.11,60:6-10	Review
31	白石武史, 岩崎昭憲	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科/臓器移植医療センター	外科における「男女共同参画社会」の実現に向けての課題	123(5)378-380, 2022年 9月	Original Article
32	大森治希, 伊崎輝昌, 三宅智, 新城安原, 小林駿介, 山本卓明	整形外科	85歳以上の高齢者に対するリバース型人工肩関節全置換術の短期成績	整形外科と災害外科 2022,71(3):66-69 9月	Original Article
33	永田 旺也, 石松 哲郎, 工藤 悠貴, 中山 鎮秀, 松永 大樹, 前山 彰, 山本 卓明	整形外科	内側開大式高位脛骨骨切り術における外反Luxityの臨床成績への影響	整形外科と災害外科 2022,71(3):410-414 9月	Original Article
34	長尾 俊二郎, 中山 鎮秀, 工藤 悠貴, 松永 大樹, 石松 哲郎, 前山 彰, 山本 卓明	整形外科	膝蓋大腿関節軟骨変性と相関する術前画像検査所見の検討	整形外科と災害外科 2022,71(3):415-419 9月	Original Article
35	塩見 涼, 松永 大樹, 宮崎 弘太郎, 中山 鎮秀, 石松 哲郎, 前山 彰, 山本 卓明	整形外科	全身関節弛緩を有するACL損傷患者のX線学的評価	整形外科と災害外科 2022,71(3):431-433 9月	Original Article
36	榊 純平, 瀬尾 哉, 木下 浩一, 坂本 哲哉, 松永 大樹, 土肥 憲一郎, 山本 卓明	整形外科	INHERITOR Stemを用いた人工股関節全置換術の短期成績	整形外科と災害外科 2022,71(3):468-470 9月	Original Article
37	福原 聡, 木下 浩一, 坂本 哲哉, 瀬尾 哉, 松永 大樹, 土肥 憲一郎, 山本 卓明	整形外科	仰臥位前外側アプローチ人工股関節全置換術におけるカップ前捻角指標テンプレートの有用性の検討	整形外科と災害外科 2022,71(3):471-473 9月	Original Article
38	清水 黎玖, 坂本 哲哉, 木下 浩一, 瀬尾 哉, 松永 大樹, 土肥 憲一郎, 山本 卓明	整形外科	肥満患者におけるナビゲーションを用いたTHAの検討	整形外科と災害外科 2022,71(3):491-493 9月	Original Article
39	島内 諒, 吉村 一郎, 萩尾 友宣, 石松 哲郎, 長友 雅也, 杉野 裕記, 山本 卓明	整形外科	遠位脛骨斜め骨切り術前後における足関節鏡視所見の比較	整形外科と災害外科 2022,71(3):571-575 9月	Original Article
40	今田 優, 萩尾 友宣, 吉村 一郎, 石松 哲郎, 長友 雅也, 杉野 裕記, 山本 卓明	整形外科	徒手矯正不可能な外反母趾に対する第一中足骨遠位直線状骨切り術(DLMO)の治療成績	整形外科と災害外科 2022,71(3):576-579 9月	Original Article
41	藤村 省太, 田中 潤, 塩川 晃章, 柴田 遼, 山本 卓明	整形外科	脊椎内視鏡手術における除圧操作の違いが手術に与える影響の比較	整形外科と災害外科 2022,71(3):615-617 9月	Original Article
42	松元 健太郎, 前山 彰, 山崎 裕太郎, 小田 大嘉, 村岡 邦秀, 萩尾 友宣, 山本 卓明	整形外科	関節リウマチに対するパキシニブの治療成績	整形外科と災害外科 2022,71(4):686-689 9月	Original Article
43	立花 悠, 村岡邦秀, 廣田高志, 田中 秀明, 山本卓明	整形外科	手根管症候群と心アミロイドーシスの関連性	整形外科と災害外科 2022,71(4):690-692 9月	Original Article
44	永田 直哉, 廣田 高志, 田中 秀明, 村岡 邦秀, 山本 卓明	整形外科	母指CM関節症に対する関節形成術において母指列短縮が関係する因子の検討	整形外科と災害外科 2022,71(4):706-709 9月	Original Article
45	古賀 幹朗, 西尾 淳, 中山 鎮秀, 山本 卓明	整形外科	血管平滑筋腫の臨床・画像的特徴の検討	整形外科と災害外科 2022,71(4):721-724 9月	Original Article
46	佐々木 颯太, 森下 雄一郎, 大迫 浩平, 伊藤田 慶, 横田 和也, 久保田 健介, 林 哲生, 益田 宗彰, 坂井 宏旭, 河野 修, 前田 健	整形外科	歯突起後方偽腫瘍に伴う外傷性非骨傷性環軸椎後方脱臼及び中下位頸髄損傷の一例	整形外科と災害外科 2022 9月,71(3):535-539	Case report

47	佐々木 颯太, 松下 優, 塚本 伸章, 倉員 太志, 北出 一季, 貴島 賢, 馬場 寛, 岡 和 一朗, 小宮 紀宏, 林田 光正, 前 隆男	整形外科	肘関節内粉碎骨折に対する創外固定術後に医原性橈骨神経麻痺を来した一例	整形外科と災害外科 2022 9月,71(4):872-874	Case report
48	森田 愛, 高木 誠司, 大慈弥 裕之	形成外科	二分脊椎症患者の長期にわたる難治性坐骨部褥瘡の治療経験	創傷・13(2) : 94-99, 2022 4月	Case report
49	前山 徹, 吉村 希, 鈴木 翔太郎, 他	形成外科	外傷性仮性動脈瘤により生じた脛骨神経麻痺症状の1例	日本形成外科学会誌・43(2) : 89-93, 2023 2月	Case report
50	高木 誠司, 吉村 希	形成外科	【顔面骨骨折の診断と治療】上顎骨骨折	形成外科・65(8) : 936-942, 2022 8月	Review
51	高木 誠司, 小柳 俊彰	形成外科	【乳癌診療の最新の知識】リンパ浮腫に対する複合的理学療法・外科療法	臨牀と研究・99(8) : 960-963, 2022 8月	Review
52	高木 誠司	形成外科	境界領域 知っておきたい 形成外科からみた創処置に関する基本と禁忌	臨牀整形外科・57(9) : 1158-1161, 2022 9月	Review
53	大山 拓人, 高木 誠司, 秋田 定伯	形成外科	【新規創傷治療材料をいかに活かすか】エピソードの使用経験	形成外科・65(10) : 1177-1186, 2022 10月	Review
54	小谷尚也, 森下登史, 安部 洋 他	リハビリテーション部(脳神経外科)	Hybrid Assistive Limb(腰タイプを用いた慢性腰痛・フレイル患者に対するバイオフィードバック療法	脊椎脊髄ジャーナル 35(5):327-332,2022 9月	Original Article
55	Masato Furui, Yoshihiko Sakurai, Bunpachi Kakii, Mai Asanuma, Hiroaki Nishioka, Takeshi Yoshida	心臓血管外科	Response to Letter by Nakamura, et al. regarding the article, "Benefits and Risks of Delayed Surgery for Ventricular Septal Rupture after Acute Myocardial Infarction"	International Heart Journal 63(3): 1216, 2022 11月	Review
56	松田絵奈, 佐藤絵美, 筒井ゆき, その他	皮膚科	小児に発症した中毒表皮壊死症(TEN)の1例	西日本皮膚科.2022 Apr;84(2):100-103	Case report
57	足達麻衣, 佐藤絵美, 柴山慶継, その他	皮膚科	若年のSLE患者に生じた口唇有棘細胞癌の1例	西日本皮膚科.2022 Jun;84(3) : 215-217	Case report
58	西尾穂波, 佐藤絵美, 筒井ゆき, その他	皮膚科	フォリクリン遺伝子変異により確定診断したBirt-Hogg-Dube症候群の1例	西日本皮膚科. 2022 Jun;84(4) : 329-332, 2022	Case report
59	古河裕紀子, 佐藤絵美, 今福信一	皮膚科	掌蹠膿疱症患者に発症した播種状表在性光線性汗孔角化症(DSAP)の1例	西日本皮膚科. 2022 Jun;84(4) : 333-336,2022	Case report
60	吉村麻衣, 佐藤絵美, 柴山慶継, その他	皮膚科	典型的なSpindle Cell Squamous Cell Carcinomaの1例	西日本皮膚科. 2022 Jun;84(4) : 347-350	Case report
61	塚本遥子, 佐藤絵美, 中村加奈恵, その他	皮膚科	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症(EGPA)に合併したガス壊疽	西日本皮膚科. 2022 Oct; 84(5):447-451	Case report
62	中村加奈恵, 古賀文二, 武藤礼治, その他	皮膚科	多発する紅褐色斑を呈した芽球性形質細胞様樹状細胞腫瘍の1例	Skin Cancer. 2022 Oct;87(2):133-137	Case report
63	古河裕紀子, 佐藤絵美, 足達麻衣, その他	皮膚科	ステロイド内服治療中に発症した播種状表在性光線性汗孔角化症	皮膚病診療. 2022 Nov; 44(11):1018-1021, 2022	Case report
64	西尾穂波, 佐藤絵美, 今福信一	皮膚科	【母斑と母斑症～モザイクをめぐる知的冒険～】ACVRL1に変異がみられたOsler病2型	皮膚病診療. 2022 Nov; 44(11):988-991	Case report
65	高木 萌, 大賀保範, 佐藤絵美, その他	皮膚科	臨床的にChronic Expanding Hematomaの所見を伴ったGiant Vascular Eccrine Spiradenomaの1例	西日本皮膚科.2022 Dec; 84(6):541-546	Case report
66	鶴田紀子, 今福信一	皮膚科	乾癬性関節炎患者における手指の単純X線変化と患者報告quality of life(QOL)アウトカムとの関連 西日本乾癬レジストリより	日本脊椎関節炎学会誌.2022;9(1) : 39-43	Case report
67	松田 絵奈, 佐藤 絵美, 清水 裕毅, その他	皮膚科	脂漏性角化症と基底細胞癌が併存した高齢者の2例	加齢皮膚医学セミナー. 2022 Dec;17(2):37-42	Case report
68	松岡弘文, 羽賀宣博	腎泌尿器外科	AYA世代以降での逆流性腎症の問題点とその対策	泌尿器科, 15(5): 520-527, 2022.5	Review

69	松岡弘文、宮崎 健、羽賀宣博	腎泌尿器外科	膀胱尿管逆流症 有熱性尿路感染症に対するファーストタ ッチ	臨床泌尿器科、77(1): 20- 26、2023.1	Review
70	藤川 愛子、入江 慎一郎、宮崎 健 他	腎泌尿器外科	腹腔鏡下で摘出した副腎悪性腫瘍との 鑑別が困難であった巨大 Extragastrointestinal Stromal Tumor (EGIST) の一例	西日本泌尿器科、85(3): 83-88、2023.3	Case report
71	羽賀宣博、坪内和女、中川千鶴 他	腎泌尿器外科	過活動膀胱診療 新時代を迎えて	臨床泌尿器科、77(3): 209-216、2023.3	Review
72	宮本新吾、 漆山大知、 柴田磨己、他	産婦人科	近未来に適合した妊婦の子宮内感染予知 診断薬の開発	化学工業・73(7):436-443、 2022.7	Review
73	高橋理恵	眼科	進行性網膜外層壊死の傍眼にサイトメガロ ウイルス網膜炎を発症した1例	臨床眼科・2022年9月	Original Article
74	坂田健太郎	耳鼻咽喉科	早期診断に苦慮した喉頭結核の一例	日本気管食道科学会会報 73(6):369-374 2022.12	Case report
75	坂本桂子、西山麻理恵、伊東絵美、 浦川博史、高山幸久、吉満研吾	放射線科	【腹部の最新画像情報2022】 晩発性皮膚 ポルフィン症の5例 肝の画像所見につい て	臨床放射線、2022.5; 67 (5): 437-443	Original Article
76	吉満研吾	放射線科	3.胆道・胆嚢 3) 胆嚢癌、胆管癌: 胆嚢 癌の病期診断、隆起型胆嚢癌、浸潤型胆 嚢癌、胆嚢扁平上皮癌・腺扁平上皮癌、転 移性胆嚢腫瘍、肝門部領域胆管癌、遠位 肝外胆管癌、胆管内乳頭状腫瘍(IPNB)1 型、2型、胆管神経内分泌腫瘍・混合性神 経内分泌非神経内分泌腫瘍	肝胆膵の画像診断—CT・ MRIを中心に: 改訂第2版 2022年4月	Others
77	吉満研吾	放射線科	3.胆道・胆嚢 4)胆管疾患: IgG4関連硬化 性胆管炎	肝胆膵の画像診断—CT・ MRIを中心に: 改訂第2版 2022年5月	Others
78	高山幸久、伊東絵美、田中慎二、浦 川博史、吉満研吾	放射線科	画像診断レポート ここだけは落とせな い! 主治医に伝えるべきポイント 第5章 消化器 2.胆嚢/胆管腫瘍	臨床放射線 2022.10; 67(11): 1347-1358	Review
79	筋田袖衣、長町茂樹、野々熊真也、 高野浩一、桑原康雄、吉満研吾、尾 籠晃司、坪井義夫	放射線科	アルツハイマー病における海馬萎縮指標と 疾患特異領域脳血流指標の相関	臨床放射線 2022.6; 67(6): 583-592	Original Article
80	本田 学、長町茂樹、高山幸久、吉 満研吾	放射線科	1231-MIBG シンチグラフィーで集積を認め たExtra-Gastrointestinal stromal tumor (EGIST)の1例	臨床核医学 2023.1; 56(1): 2-5	Case report
81	吉満研吾	放射線科	肝胆膵領域MRIにおけるdeep learning再構 成の臨床応用	JIYU KUKAN (INNERVISION)2022.4; 40: 11-12	Review
82	藤光律子、島倉樹子、吉満研吾	放射線科	Digital breast tomosynthesisで検出された 境界明瞭平滑腫瘤病変の良悪性の検討	日本乳癌検診学会誌 2022.9; 31(2): 189-194	Original Article
83	長町茂樹	放射線科	認知症診断における脳機能画像の役割一 特に脳血流SPECTを用いて (Role of functional brain imaging in the diagnosis of dementia - especially using cerebral blood flow SPECT)	老年期認知症研究会誌 2023.3; 24(4): 50-55	Review
84	磯部泰司	腫瘍・血液・感染症内科	TET2遺伝子変異を持つNK細胞性慢性リン パ増殖性疾患の臨床的特性	血液内科 84:737-740,2022.5	Review
85	磯部泰司	腫瘍・血液・感染症内科	慢性好中球減少症患者におけるNK細胞 サブセット構成の変化	血液内科 85:729-732,2022.11 2022年11月号	Review
86	重本佳奈、渡邊廉也、氷室尚子ら	腎臓・膠原病内科	剖検により被嚢性腹膜硬化症と診断した 若年透析患者の1例.	九州人工透析研究会誌 6: 9-14, 2022 2022-12月	Case report
87	坪井 義夫	脳神経内科	増大特集 次の一手—神経筋疾患難治例を どのように治療するか、難治性の起立性低 血圧を認めるパーキンソン病患者—早期診 断に向けた症状の見極め方と治療戦略	BRAIN and NERVE、74(5), 708-713. 2022年5月)	Original Article
88	山田美穂、津川潤、新居浩平、井上 律郎、坪井義夫、東登志夫.	脳神経内科	脳血管造影 3D イメージの fusion により造 影剤を使用せずに頸動脈ステント留置術 を行った 1 例.	臨床神経学、62(10)、801- 804. 2022年9月	Original Article
89	日吉 哲也、鍋島 茂樹	総合診療部	腰痛を主訴とする重篤な内科・外科疾患	臨床と研究 99(12):1451-1455,2022 発行: 2022年12月	Review
90	小川正浩	臨床検査・輸血部	不整脈医からみた高血圧・心不全治療	臨床と研究・2022年12月 (99(12):113-117)	Review

91	小川正浩	臨床検査・輸血部	心電学の進歩と不整脈治療	日本臨床検査医学会誌・2023年3月(71(3):179-182)	Review
92	山城 敏介 富永香織 小沢芳博 上野登喜生 上村忠久 吉満研吾	放射線部	RADspeed ProにおけるPOWER GLIDEの使用経験	Medical Now (島津製作所) 発行年: 2023年03月10日	Others
93	萩原大樹、東恵理、伊藤弥紀他	薬剤部	口腔カンジダ症におけるミコナゾール付着錠の使用実態調査	薬理と治療 50, 977-982. 2022年6月	Original Article
94	森脇典弘、宮崎元康、野田航平他	薬剤部	重症COVID-19患者におけるレムデシビル の安全性の検討	日本病院薬剤師会雑誌 58, 795-799. 2022年7月	Original Article
95	佐々木知美、池内忠宏、兼重晋他	薬剤部	鉄製剤と茵ちん蒿湯の併用により乳児の 歯牙着色を生じた1例	小児内科 54, 2023-2027. 2022年12月	Case report
96	宮原 聡、早稲田龍一、佐藤寿彦、 他	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科	肺移植後の消化管合併症	75(4)284-289, 2022/4 発行日 2022年4月1日	Original Article
97	中村真輔, 喜多涼介, 吉野 綾, 石田 晋太郎, 眞野亮介, 橋口志保, 青柳 直子, 嶋村知記, 瀬戸美夏, 近藤誠 二	歯科口腔外科	福岡大学病院歯科口腔外科における下顎 埋伏智歯抜歯術後感染予防抗菌薬の使 用実態と手術部位感染発生状況 ~ガイド ライン発行前後の推移~	福岡大学医学紀要 49(2), 71-76, 2022 発行年: 2022年09月01日	Original Article
98	中村真輔, 吉野綾, 石田晋太郎, 眞 野亮介, 橋口志保, 近藤誠二	歯科口腔外科	舌に発生したCD4-CD8-ダブルネガティブT 細胞性メトトレキサート関連リンパ増殖性 疾患の1例	日本口腔外科学会誌 68(8): 346-351, 2022 2022-08-20	Case report
99	中村真輔, 喜多涼介, 吉野 綾, 石田 晋太郎, 眞野亮介, 橋口志保, 青柳 直子, 嶋村知記, 瀬戸美夏, 近藤誠 二	歯科口腔外科	福岡大学病院における過去5年間の慢性 硬膜下血腫発生動向の後ろ向き調査と顎 顔面外傷後に発症した慢性硬膜下血腫の 1例	福岡大学医学紀要 49(2), 95-100 2022 2022/9/1	Case report
100	Mimata R, Yamanokuchi T, Maeda T rt al.	麻酔科	Relationship between minute-to-minute variability of intraoperative arterial blood pressure and postoperative acute kidney injury in patients undergoing noncardiac surgery	福岡大医紀, 50(1):29-34, 2023 Mar.	Original Article
101	佐藤聖子、秋吉浩三郎	麻酔科	麻酔科医が知っておくべき産科危機的出 血	臨床麻酔, 46(9):1159- 1166, 2022 Sep.	Others
102	佐藤聖子、秋吉浩三郎	麻酔科	産後神経障害の評価と治療	臨産産, 77(1): ,127-132, 2023 Jan.	Others

小計12件
合計102件

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有 無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有 無
・ 手順書の主な内容 福岡大学医に関する倫理委員会標準業務手順書 医に関する倫理委員会審査事項迅速審査事項及び報告事項	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有 無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有 無
・ 規定の主な内容 福岡大学利益相反に関する規程 福岡大学臨床研究に係る利益相反ポリシー 福岡大学臨床研究に係る利益相反マネジメント委員会に関する内規	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 2 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 回
・ 研修の主な内容 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針について 利益相反 (coi) について	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

<ul style="list-style-type: none">・内科専攻医研修プログラムに基づく研修・消化器内科後期臨床研修プログラムに基づく研修・呼吸器専門研修プログラムに基づく研修・精神科専門医 研修プログラム・小児科後期臨床研修プログラムに基づく研修・呼吸器・乳腺内分泌・小児外科後期臨床研修プログラムに基づく研修・整形外科後期臨床研修プログラムに基づく研修・形成外科専門研修プログラムに基づく研修・脳神経外科後期臨床研修プログラムに基づく研修・心臓血管外科後期臨床研修プログラム・皮膚科後期臨床研修プログラムに基づく研修・腎泌尿器外科 専門研修施設群専門研修プログラムに基づく研修・産婦人科後期臨床プログラムに基づく研修・眼科卒後臨床研修プログラムに基づく研修・耳鼻咽喉科専門研修プログラムに基づく研修・放射線科領域モデル専門研修プログラム・腫瘍・血液・感染症内科後期臨床研修プログラムに基づく研修・腎臓・膠原病内科後期臨床研修プログラムに基づく研修・脳神経内科後期臨床研修プログラムに基づく研修・消化器外科後期臨床研修プログラムに基づく研修・麻酔科後期臨床研修プログラムに基づく研修・歯科口腔外科後期臨床研修プログラムに基づく研修・救命救急センター後期臨床研修プログラムに基づく研修・病理専門研修プログラムに基づく研修
--

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	132.08	人
-------------	--------	---

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
三浦 伸一郎	循環器内科	教授	29年	
平井 郁仁	消化器内科 内視鏡部	診療部長	31年	消化管 領域
釈迦堂 敏	消化器内科	副診療部長	37年	肝胆膵 領域
藤田 昌樹	呼吸器内科	診療部長	36年	
川寄 弘詔	精神神経科	診療部長	38年	
永光 信一郎	小児科	診療部長	34年	
佐藤 寿彦	呼吸器・乳腺 内分泌・小児外	診療部長	25年	

	科			
山本 卓明	整形外科	主任教授	33年	
高木 誠司	形成外科	診療部長	28年	
安部 洋	脳神経外科	診療部長	27年	
和田 秀一	心臓血管外科	診療部長	31年	
今福 信一	皮膚科	教授	31年	
羽賀 宣博	腎泌尿器外科	診療部長	26年	
四元 房典	産婦人科	教授	20年	
内尾 英一	眼科	教授	28年	
坂田 俊文	耳鼻咽喉科	診療部長	37年	
吉満 研吾	放射線科	診療部長	36年	
高松 泰	腫瘍・血液・ 感染症内科	診療部長	36年	
川浪 大治	内分泌・糖尿 病内科	診療部長	25年	
升谷 耕介	腎臓・膠原病 内科	教授	29年	
坪井 義夫	脳神経内科	診療部長	37年	
長谷川 傑	消化器外科	診療部長	18年	
秋吉 浩三郎	麻酔科	診療部長	27年	
近藤 誠二	歯科口腔外科	教授・診療部長	31年	
石倉 宏恭	救命救急セン ター	センター長	37年	
永光 信一郎	小児科	診療部長	34年	
鍋島 茂樹	総合診療部	診療部長	33年	
濱崎 慎	病理診断科	診療部長	27年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 患者急変時の対応(救急蘇生法・AED演習)、安全な輸血療法の実施(演習)、医療安全の基本・研修の期間・実施回数 各研修 1時間、4回/年 実施・研修の参加人数 175名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容 多職種合同オリエンテーション、接遇マナー研修・研修の期間・実施回数 令和4年4月実施・研修の参加人数 約120名
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画	2. 現状
管理責任者氏名	病院長 岩 崎 昭 憲	
管理担当者氏名	庶務課長 田中 智 医療情報部事務室長 服部 和文 薬剤部長 神村 英利	医事課長 江渕 猛雄 放射線部技師長 上村 忠久

		保 管 場 所	管 理 方 法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	庶務課	
		各科診療日誌	各診療科	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	手術部	
		看護記録	看護部	
		検査所見記録	臨床検査部	
		エックス線写真	放射線部 (フィルム庫)	
		紹介状	地域医療連携センター	
	退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医療情報部	<p>当院の診療記録は一患者一番号で管理を行っており、入院診療記録については、入院期間毎にターミナルデジット方式、外来診療記録については患者番号順で保管している。平成21年8月5日から電子カルテシステムを導入しているが、同意書や入院診療計画書、退院サマリなどの紙保管が必要なものについては、紙運用時と同様に保管しており、令和4年3月のタイムスタンプ導入後は全て電子カルテ上に保存している。</p> <p>なお、入院・外来診療記録共に、最終来院日から10年経過したものは廃棄し、タイムスタンプ取込み後の紙については、6か月保管後廃棄としている。</p> <p>また、個人情報を厳格に管理するため、平成29年6月1日に「診療記録取扱内規」を改正し、紙の診療記録の貸出を禁止し、閲覧にて対応している。</p>	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿		庶務課
		高度の医療の提供の実績		庶務課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績		庶務課
		高度の医療の研修の実績		庶務課
		閲覧実績		庶務課
		紹介患者に対する医療提供の実績		地域医療連携センター
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿		薬剤部・医事課
		地域医療連携センターにて一括管理 帳簿として保管		

事項 規則 第一条の 十一 第一項に 掲げる	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理部	医療安全管理部にて一括管理
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理部	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理部	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理部	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部 医療安全管理部 庶務課
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医療安全管理部
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全管理部
		医療機器安全管理責任者の配置状況	臨床工学センター
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	臨床工学センター
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	臨床工学センター		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	臨床工学センター		
			医療安全管理部・感染制御部にて一括管理
			臨床工学センターにて一括管理 以下の項目、上記に同じ

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全管理部
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全管理部
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医療安全管理部
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医療情報部
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全管理部
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医療安全管理部
		監査委員会の設置状況	医療安全管理部
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全管理部
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全管理部
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理部
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全管理部
		職員研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医療安全管理部
		管理者が有する権限に関する状況	庶務課
管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況	庶務課		
開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況	庶務課		
		医療安全管理部・感染制御部にて一括管理	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画 <input type="radio"/> 2. 現状 <input checked="" type="radio"/>
閲覧責任者氏名	事務長 川野 耕
閲覧担当者氏名	庶務課長 田中 智 医事課長 江渕 猛雄 医療情報部事務室長 服部 和文
閲覧の求めに応じる場所	・病院西別館 3階B会議室
閲覧の手続の概要 閲覧を希望の際には、庶務課へ申請を行い、閲覧室である病院西別館3階B会議室にて閲覧を行う。	

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	0	件
閲覧者別	医師	延	0	件
	歯科医師	延	0	件
	国	延	0	件
	地方公共団体	延	0	件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	(有) 無
<ul style="list-style-type: none"> ・ 指針の主な内容： 1. 安全管理に関する基本的考え方 2. 安全管理のための委員会および院内の組織に関する基本事項 3. 安全管理のための職員研修に関する基本方針 4. 安全確保を目的とした改善策を講ずるための基本方針 5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針 6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針 7. 患者からの相談への対応に関する基本方針 8. その他医療安全の推進のために必要な基本方針 	
<p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 設置の有無 ((有) 無) ・ 開催状況：年 12 回 ・ 活動の主な内容：医療安全管理委員会 (1回/月) 	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 17 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の内容 (すべて)： 1. 医療安全院内教育 7 回 2. 医療安全実践セミナー 10 回 	
<p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機関内における事故報告等の整備 ((有) 無) ・ その他の改善のための方策の主な内容： 1. 医療事故・合併症・重要インシデント事例の検討・医療安全教育の企画。 2. 医療安全管理者が抽出したインシデント事例を医療安全管理部小委員会で検討し、改善を要するものはセーフティマネジャー会を通じて伝達している。また、全職員に電子カルテ掲示板で会議資料を公開し、安全管理・危機管理意識の向上に努めている。 3. 医療安全管理責任者および医療安全管理者は、事故・インシデント・合併症発生時など、必要に応じて当事者、当該部署と個別に対応し指導する。特に重要事例に関しては、検討会を開いて、迅速な対応を心掛けている。 4. 病院全体の問題として取り上げる必要がある事例は、医療安全管理委員会に提言し、安全管理の改善に役立てる。 5. 「安全管理レポート」(毎月)と「医療安全情報」(適時)を発行し、全職員へフィードバックおよび周知徹底を図っている。 6. 医療安全管理院内ラウンドを月1回実施し、現状把握および周知徹底を図っている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 院内感染対策に関する基本的考え方 2. 院内感染対策のための委員会および院内の組織に関する基本事項 3. 感染対策に関する教育・研修に関する基本方針 4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針 5. 院内感染発生時の対応 6. 感染対策の閲覧に関する基本方針 	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染対策委員会（1回/月） ・ 感染制御部会議（1回/月） ・ セーフティマネジャー会（1回/月） ・ 看護部部内感染対策委員会（1回/月） 	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年5回
<p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全院内教育 5回 	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備（有 無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「院内感染対策のための指針」に即した院内感染対策マニュアルを整備し、遵守状況を院内各部署のラウンドで確認している。 2. 1回/週、ICT（ICD、感染管理認定看護師（CNIC）、臨床検査技師、薬剤師の4職種）が院内各部署のラウンドを行い、微生物ラウンド、環境ラウンドを実施している。微生物ラウンドに際して、資料（細菌検査室で全部署直近2週間分のラウンド対象患者一覧表）を毎回準備している。 3. 感染対策支援システム（電子カルテ端末上）で毎日、血液培養陽性者、抗酸菌陽性者、新規多剤耐性菌検出患者等の報告を確認し、部署の感染対策について情報共有している。また、毎週1回以上、ICTミーティングを行っている。 4. 院内感染を疑う場合には適宜、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応している。 5. 行政への報告対応が必要な場合には、感染制御部内で連携し、関係部署と調整し対応している。 6. アウトブレイク等問題が発生した部署については、適宜介入し、当該部署のスタッフを対象に研修会を開催している。アウトブレイク介入事例については、病院職員に対して電子カルテ端末上で通知し、診療部長会、感染対策委員会、セーフティマネジャー会を通じて感染対策についての周知徹底を図っている。 7. コロナ禍以降、2回/週のコロナ会議（感染対策委員会に準じたメンバー含む）を開催し、情報共有を図ると共に、諸々の感染対策についての諮問会議としている。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 18 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>○報道事例から学ぶ医薬品の安全管理</p> <p>○注意すべき医薬品の取扱いについて</p> <p>○医療安全とリスクマネジメント</p> <p>○インスリン薬剤の基礎知識とインスリン投与</p> <p>○注射薬剤の基本的知識</p> <p>○薬剤関連インシデント事例と対策</p> <p>○管理者として麻薬の取扱いを理解する</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>○医薬品の採用：薬事委員会において、医薬品安全管理責任者の立場で採用の可否を審議</p> <p>○医薬品の管理：各部署で手順書業務確認表を用いて使用期限や管理状況などを確認、月単位で医薬品安全管理責任者が確認 麻薬、覚醒剤原料は業務開始時に理論在庫数と実在庫数が一致するかを確認</p> <p>○患者に対する医薬品の投薬指示から調剤に関する事項：注射薬払出システムおよび調剤支援システムによるバーコード認証の導入 特にリスクの高い医薬品の調剤時は薬歴、病名を確認し、処方内容を検討</p> <p>○患者に対する与薬や服薬指導に関する事項：薬剤管理指導業務の推進 病棟薬剤業務の推進 処方薬の管理方法を看護師と協議</p> <p>○医薬品情報の収集・提供：医薬品情報室による情報収集と発信、副作用報告の一元管理 適応外、禁忌などの処方に係る確認及び必要な指導</p> <p>○他施設との連携：がん化学療法レジメンの公開 持参薬の確認および退院時指導の推進、病診薬連携の推進 薬剤情報ネットワーク（VPCS）の活用</p>	

④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有 無)
- ・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば) :

○Verorab (輸入狂犬病ワクチン) : 海外渡航時

○ブリリアントブルーG (院内製剤) : 黄斑疾患に対する硝子体手術時の内境界膜染色

- ・ その他の改善のための方策の主な内容 :

○錠剤などの取り間違いを防止するため、ピッキング鑑査システム (ポリムス) を導入した。

○麻薬調剤時に、薬袋 (ラベル)、処方箋、払出処理票の取り違えを防止するために、オーダ番号での確認を徹底するよう周知した。

○特定生物由来製品の製造番号を正確に管理するため、特定生物由来製品管理システム (LODMAN) を導入し、使用している。

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 25 回
<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修の主な内容： 輸液、シリンジポンプの研修を新人医師、看護師を対象に医療安全管理部と共同し実施している。 医療機器5項目（血液浄化装置、補助循環装置、人工呼吸器、保育器、除細動器）の研修を実施。 新規購入機器の使用方法についての研修。 	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る計画の策定 （有・無） ・ 機器ごとの保守点検の主な内容： 血液浄化装置、補助循環装置、人工呼吸器、保育器、除細動器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、生体情報モニタ、麻酔器、他全36項目の保守点検を院内点検とメーカー点検として計画し実施している。 	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば）： 特になし ・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器のインシデント情報を医療安全管理委員会で情報共有し、各部署に対策内容を、セーフティマネージャー会などで全体へ周知する。 	

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	(有) 無
<p>・ 責任者の資格 (医師)・ 歯科医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理者責任者は以下のように医療安全管理部門等を統括している。</p> <p>1. 病院長と連携し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務の管理・指導を行っている。</p> <p>2. 医師・薬剤師・看護師の医療安全専従者(医療安全管理者)の業務の管理指導を行っている。</p> <p>3. 専門分野責任者と連携し、各部門の医療安全を推進・指導している。</p> <p>4. 医療事故発生時は、事故調査委員会、事故対策委員会における病院長の支援を行い、医療安全上の課題への対策について職員への周知、指導を行っている。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	(有) (10名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>○ 薬剤部薬品情報室に終日担当者を配置して情報の整理・周知を一元化</p> <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>○ 医療安全管理部で申請を受け付け、医療倫理委員会に意見を求め、導入の可否を決定</p> <p>○ 未承認薬使用症例の副作用情報等を収集し医療安全管理委員会へ報告</p> <p>○ 適応外・禁忌薬使用について、調剤支援システムを用いて抽出</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (有) ・ 無)</p> <p>・ 担当者の所属・職種：</p> <p>(所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p> <p>(所属： ， 職種) (所属： ， 職種)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	(有) 無
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 ((有) 無)</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容：毎月診療科・部署に対してインフォームドコンセント記録を基に、説明日時・場所、同席者(医療者・患者の家族)、患者・家族の反応等が記載されているか等の事項について監査を行って</p>	

いる。不備が認められる場合はインフォームドコンセント委員会から部署に改善指導を行っている。

⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況

有・無

・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：

① 退院カルテのチェック

退院後 14 日以内に、病棟で「【入院】患者ファイル完成チェックリスト」に沿って、退院カルテの紙保存分と電子カルテ作成分の量的監査を行い、入院カルテ庫へ提出する。

入院カルテ庫では病棟でチェックされた「【入院】患者ファイル完成チェックリスト」を使用してダブルチェックを行い、不備があれば確認を依頼している。また、診療情報管理士が病歴管理システム入力時にも監査を行っており、退院サマリや手術記録などに不備があれば確認・訂正を依頼している。

② 入院診療計画書

毎日、入院後 6 日目で入院診療計画書が電子カルテ上未提供の患者、または入院中で記載内容に不備がある患者について「入院診療計画書（6 日目作成状況一覧）」を作成し、対象病棟へ配布している。また、翌日（入院後 7 日目）は前日配布したリストを基に再度チェックを行い、未提供の患者については診療情報管理士から病棟師長へ確認の連絡をしている。

③ 委譲者オーダ・研修医カルテ未承認督促

前週の金曜日までの未承認を抽出し、週 1 回メールにて督促。前月以前の未承認が残っている医師を最優先で督促を行っている。

④ カルテ自主点検

毎月 1 回医師によるカルテ自主点検を行っており、他科と自科のカルテ入・外各 2 名分を「カルテ記載点検リスト」に基づき点検している。診療情報管理士も同じリストを使用し、評価後にフィードバックを行っている。

⑤ 診療情報管理士によるカルテ監査

毎日、外来と入院中や退院翌日の患者を数名抽出し、医師の記載内容やインフォームドコンセント記録など「カルテ監査チェックリスト」に基づき監査を行い、医師にフィードバックしており、質的監査の向上に取り組んでいる。

⑥ 医療安全管理部門の設置状況

有・無

・所属職員：専従（ 5 ）名、専任（ ）名、兼任（ 8 ）名

うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ 3 ）名

うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること

・活動の主な内容：

医療安全管理部は、医療の安全に必要な指導、安全対策の推進、患者の相談に関する業務を行う。

1. 医療法施行規則に基づく業務

ア. 医療安全管理委員会で用いられる資料及び議事録の作成及び保管、その他医療安全管理委員会の庶務に関すること。

イ. 事故等に関する診療録や看護記録等への記載が正確かつ十分なされていることの確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。

ウ. 患者や家族への説明など事故発生時の対応状況について確認を行うとともに、必要な指導を行うこと。

エ. 事故等の原因究明が適切に実施されていることを確認するとともに、必要な指導を行うこと。

オ. 医療安全に係る連絡調整に関すること。

カ. 高難度新規医療技術導入及び未承認新規医薬品等の使用の適否を決定する担当部門としての役割を担う。

キ. その他医療安全対策の推進に関すること。

2. 医療安全管理委員会で決定した方針に基づく業務

ア. 医療安全カンファレンスで用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全カンファレンスの庶務に関すること。

イ. 医療安全管理部小委員会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他医療安全管理部小委員会の庶務に関すること。

ウ. セーフティマネジャー会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他セーフティマネジャー会の庶務に関すること。

エ. 事例検討会で用いられる資料及び議事録の作成と保管、その他事例検討会の庶務に関すること。

オ. 患者および家族からのご意見・ご要望相談（医療紛争を除く）の対応に関すること。

カ. 相談内容に応じた関係部署及び関係機関との連絡調整に関すること。

キ. その他医療安全管理部長が必要と認めた業務に関すること

- ・ H28年4月から毎月手術時の血栓予防策実施状況、インフォームドコンセントの実施状況、輸血時のPDA認証状況等についてモニタリングを行い、診療状況の把握に努めている。
- ・ 院内ラウンドを毎月実施し、職員の医療安全に関する意識を把握し、意識向上のための方策を検討している。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（4件）、及び許可件数（4件）
- ・ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有 無）
- ・ 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有 無）
- ・ 活動の主な内容：
 1. 診療科の長から高難度新規医療技術の提供の適否について申請を受理したときは、申請の内容を確認するとともに、高難度新規医療技術評価委員会に対し、当該高難度新規医療技術の提供の適否、実施を認める条件等について意見を求める。
 2. 評価委員会の意見を踏まえ、当該高難度新規医療技術の提供の適否等を決定し、申請を行った診療科の長に対し、その結果を適否結果通知書により通知する。
 3. 当該高難度新規医療技術が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認められるときは、診療録等の記載内容を確認する。
 4. 高難度新規医療技術の提供が適正な手続きに基づいていたかについて、医療提供者の遵守状況の確認を行う。
 5. 高難度新規医療技術の提供の適否等について決定したとき、及び医療提供者の遵守状況について確認したときは、その内容を病院長に報告する。
 6. 高難度新規医療技術提供の評価に関する資料、議事録及び遵守状況確認記録は確認の日から5年間保存する。

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)
- ・ 高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・ 前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数 (0 件)、及び許可件数 (0 件)
- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 無)
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 無)
- ・ 活動の主な内容：
 1. 担当部門の長は、診療部長から未承認新規医薬品等の使用の申請があったときは、当該申請の内容を確認するとともに、未承認新規医薬品等評価委員会に対し、当該未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について意見を求める。
 2. 担当部門の長は、委員会の意見を踏まえ、未承認新規医薬品等の使用の適否、使用条件等について決定し、申請のあった診療部長に対しその結果を通知する。
 3. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されているかについて、定期的及び術後の患者が死亡した場合、その他必要と認める場合には診療録の記載内容を確認する。
 4. 未承認新規医薬品等が適正な手続きに基づいて提供されていたかについて、従業者の遵守状況の確認を行う。
 5. 未承認新規医薬品等の提供の適否等について決定した場合及び従業者の遵守状況について確認した場合は、その内容を病院長に報告する。
 6. 未承認新規医薬品等の評価に関する審査資料、議事録及び遵守状況確認記録は、確認の日から5年間保存しなければならない。
- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 無)
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 無)

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・ 入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 307 件
- ・ 上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になった

ものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 62 件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

診療科に対して、全死亡事例について「死亡・死産事例報告書」の医療安全管理部への提出を義務付けている。また、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したときは、特異事例として当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関して速やかな報告を求めている。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（）（病院名：久留米大学病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（）（病院名：久留米大学病院）・無）

・技術的助言の実施状況

訪問側の所見及び受入れ側の改善策を記載した相互ラウンド実施報告書を作成し、相互に内容を確認している。

⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

・体制の確保状況

当該部署及び医療安全管理部で対応する。

⑫ 職員研修の実施状況

・研修の実施状況

別紙参照

(注) 前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

【医療安全管理責任者】

特定機能病院管理者研修

【医薬品安全管理責任者】

令和4年度医薬品安全管理責任者等講習会

【医療機器安全管理責任者】

該当なし

(注) 前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

・ 第三者による評価の受審状況

公益財団法人日本医療機能評価機構「病院機能評価(3rdG:Ver. 2.0)

令和2年2月7日、認定継続

・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

福岡大学病院ホームページで公表

・ 評価を踏まえ講じた措置

公益財団法人日本医療機能評価機構への中間報告書提出

(注) 記載時点の状況を記載すること

2022年度 医療安全実践セミナー 予定

- * 講師の都合により、日程・内容等が変更になる場合があります。事前にご確認をお願いします。
- * **事前申込みが必要**です。申込み用紙は、セミナー開催日の1ヶ月前に部署に配布いたします。
- * 安全研修「1単位」として認定されます。

	予定日	時間	対象 定員	単位	テーマ予定	場所
第1回	5月26日 (木)	17:30～18:30	全職員 20名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第2回	6月30日 (木)	17:30～18:30	医師 15名	安全	「CVCエコーガイド下穿刺ハンズオン」 講師:手術部 麻酔科 岩下 耕平 先生	新館 多目的室
第3回	7月15日 (金)	17:30～18:30	全職員 20名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第4回	8月3日 (水)	17:30～18:30	全職員 20名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第5回	9月13日 (火)	17:30～18:30	医師 看護師 20名	安全	「安全な輸血療法 ～輸血投与演習～」 講師:輸血責任医師 学会認定臨床輸血看護師	新館 多目的室
第6回	10月28日 (金)	17:30～18:30	全職員 15名	安全	「CVCエコーガイド下穿刺ハンズオン」 講師:手術部 麻酔科 岩下 耕平 先生	新館 多目的室
第7回	11月21日 (月)	17:30～18:30	全職員 20名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第8回	12月22日 (木)	17:30～18:30	全職員 20名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第9回	1月18日 (水)	17:30～18:30	全職員 20名	安全	「救急蘇生法 ～急変時対応/AED演習～」 講師:救命救急センター医師 救急看護認定看護師 集中ケア認定看護師	本館 3階北
第10回	2月6日 (月)	17:30～18:30	医師 15名	安全	「CVCエコーガイド下穿刺ハンズオン」 講師:手術部 麻酔科 岩下 耕平 先生	新館 多目的室

主催 : 医療安全管理部

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

合議体の設置の有無	(有)・無
<p>・合議体の主要な審議内容 福岡大学病院診療部長会</p> <p>(1) 病院の診療、教育及び研究に関する事項</p> <p>(2) 病院運営に関する事項</p> <p>(3) その他病院長が必要と認めた事項</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 医局等、部署単位で所属長から回覧等により周知されている。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有 (無)）</p> <p>・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（有 (無)）</p>	

合議体の委員名簿

氏名	委員長 (○を付す)	職種	役職
岩崎 昭憲	○	医師	病院長
長谷川 傑		医師	副病院長
藤田 昌樹		医師	副病院長
和田 秀一		医師	副病院長
小川 正浩		医師	副病院長
甲斐 純美		看護師	副病院長
川野 耕		事務職員	事務長
高松 泰		医師	腫瘍・血液・感染症内科部長
川浪 大治		医師	内分泌・糖尿病内科部長
岩崎 昭憲 (兼務)		医師	循環器内科部長
平井 郁仁		医師	消化器内科部長
升谷 耕介		医師	腎臓・膠原病内科部長
藤田 昌樹 (兼務)		医師	呼吸器内科部長
坪井 義夫		医師	脳神経内科部長
川寄 弘詔		医師	精神神経科部長
永光 信一郎		医師	小児科部長
長谷川 傑 (兼務)		医師	消化器外科部長

佐藤 寿彦		医師	呼吸器・乳腺内分泌・小児外科部長
山本 卓明		医師	整形外科部長
高木 誠司		医師	形成外科部長
安部 洋		医師	脳神経外科部長
和田 秀一 (兼務)		医師	心臓血管外科部長
今福 信一		医師	皮膚科部長
羽賀 宜博		医師	腎泌尿器外科部長
四元 房典		医師	産婦人科部長
内尾 英一		医師	眼科部長
坂田 俊文		医師	耳鼻咽喉科部長
吉満 研吾		医師	放射線科部長
秋吉浩三郎		医師	麻酔科部長
近藤 誠二		医師	歯科口腔外科部長
濱崎 慎		医師	病理部長
小川 正浩 (兼務)		医師	臨床検査・輸血部長
平井 郁仁 (兼務)		医師	内視鏡部長
吉満 研吾 (兼務)		医師	放射線部第一部長
長町 茂樹		医師	放射線部第二部長
秋吉浩三郎 (兼務)		医師	手術部長
廣瀬龍一郎		医師	栄養部長
鎌田 聡		医師	リハビリテーション部長
安野 哲彦		医師	血液浄化療法センター長
吉田陽一郎		医師	医療情報部長
石倉 宏恭		医師	救命救急センター長
永光信一郎 (兼務)		医師	総合周産期母子医療センター長
鍋島 茂樹		医師	総合診療部長
白石 武歴史		医師	臓器移植医療センター
神村 英利		薬剤師	薬剤部長
甲斐 純美		看護師	看護部長

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有 無 ）
- ・ 公表の方法

- ・ 規程の主な内容

福岡大学病院長職務権限規程（令和元年7月制定、8月施行）

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

施設長である病院長をトップとし、副病院長と事務長とともに執行部を結成している。

執行部で執り行われる病院経営戦略会議では事業計画が立案される。

立案された事業計画は、それぞれの関連委員会にて審議され、その後、病院の最高意思決定機関である診療部長会にて審議の上、承認される。承認された事業は関連部署にて実施される。診療科ならびに診療各部、看護部、事務部は、病院の基本理念を理解し、執行部の運営方針に協力する。

実施の結果はそれぞれの関連委員会委員長によって診療部長会にて報告される。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

岩崎病院長：令和3年度特定機能病院管理者研修
病院経営管理者研修会（日本病院会主催）
医師の働き方改革セミナー（全国医学部長病院長会議主催）
医師の働き方改革に関するセミナー（日本病院会主催）

規則第15条の4第1項第2号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

監査委員会の設置状況	(有) 無
<p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>1. 監査対象期間の医療安全管理者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務実績についてヒアリングと記録を用いて監査する。</p> <p>2. 医療安全管理部門の各委員会、カンファレンス、活動内容について当事者からのヒアリングと議事録及び実施記録を用いて監査する。</p> <p>3. 必要に応じ、病院長及び開設者に対し、医療に係る安全については是正措置を講ずるよう意見を表明する。</p> <p>4. 管理者は業務結果について病院ホームページに公表する。</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有) 無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有) 無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有) 無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 (有 (無))</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>・ 病院ホームページ</p>	

監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注)					
氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
横山 晋二	久留米大学病院	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有 (無)	1
合原 則隆	〃		〃	有 (無)	1
堤 一貴	〃		〃	有 (無)	1
藤田 昌樹	福岡大学病院		院内監査委員	(有) 無	1
林 覚竜	南蔵院		医療を受ける者その他の医療従事者以外の者	有 (無)	2

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1.に掲げる者を除く。)
 3. その他

規則第15条の4第1項第3号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを
確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
内部監査室 平成18年4月1日設置
- ・ 専門部署の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ 無)
- ・ 公表の方法

規則第15条の4第1項第3号口に掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 理事会 ・ 会議体の実施状況（ 年13回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/>有・無 ）（ 年12回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 <input checked="" type="radio"/>無 ） ・ 公表の方法 			
病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：			
会議体の委員名簿			
氏名	所属	委員長 (○を付す)	利害関係
			有・無

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第15条の4第1項第4号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付ける窓口の状況

窓口の状況
<ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 通報件数 (年 1 件)・ 窓口に提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無)・ 周知の方法 福岡大学病院安全管理マニュアル、電子カルテインフォメーション、医療安全ポケットマニュアルに記載している。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類 (任意)

1 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	有 無
<p>情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>近隣の地域に対する情報発信として、各種セミナーを開催している。</p> <p>1つ目は、医療連携の促進・強化を目的として、福岡市医師会及び城南区医師会との共催で行う「福岡大学病院メディカルセミナー」と糸島医療圏の医療関係者を対象とした「糸島医師会・福大病院 地域連携学術講演会」である。これらのセミナーは、各診療科の診療技術や研究内容、病院として取り組んでいる医療体制等について、当院の医師が講演やパネルディスカッションを行うもので年4回開催している。令和4年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の収束が予測できないことから「福岡大学病院メディカルセミナー」・「糸島医師会・福大病院 地域連携学術講演会」共に WEB 形式で各2回開催した。</p> <p>2つ目は、地域の一般市民を対象とした「学んで予防!《福大病院 健康セミナー》」である。このセミナーは、城南区医師会及び早良区医師会、さらには城南区役所、城南保健所、城南区の各自治協議会・各公民館及び早良区役所、早良区保健福祉センター、早良区の各公民館に協力いただき、地域の方が知りたいと思っている「健康や病気の予防」をテーマに、当院の医師と城南区医師会推薦の医師との協同で2ヶ月に1回程度開催しており、各回200~300名の地域住民の参加がある。しかしながら、令和4年度も新型コロナウイルス感染症拡大の収束は予測できないことから YouTube 配信で4回開催した。</p> <p>3つ目は、地域がん診療拠点病院として、がん患者やそのご家族、そして一般市民を対象に「福岡大学病院がんセミナー」を開催している。このセミナーは、がん治療の最前線の情報や各種がんの診療・治療・手術等の診療技術に関すること、また、がん治療中の薬物療法や食事療法、治療中の社会生活に関することなど、がんについてあらゆる知識や情報を発信している。当セミナーも上記のセミナー・講演会と同様に、新型コロナウイルス感染症拡大の収束が予測できないことから YouTube 配信で5回開催した。</p>	

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	有 無
<p>・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>2科以上の診療科がセンターとして外来診療を行っている。</p> <p>「腎・泌尿器・膠原病センター」→腎臓・膠原病内科、腎泌尿器外科</p> <p>「消化器センター」→消化器内科、消化器外科</p> <p>「呼吸器センター」→呼吸器内科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科</p> <p>「女性診療センター」→産婦人科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科</p> <p>「皮膚科・形成外科・美容医療センター」→形成外科、皮膚科</p> <p>「ハートセンター」→循環器内科、心臓血管外科</p> <p>「小児医療センター」→小児科、小児外科</p> <p>「認知症疾患医療センター」→精神神経科、脳神経内科</p>	